九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

金田平一郎旧蔵書

和仁, かや
早稲田大学法学学術院 : 教授

梶嶋, 政司
九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門 : 助教

山根, 泰志
九州大学附属図書館図書館企画課企画係

宮嶋, 舞美
九州大学附属図書館芸術工学図書館情報サービス係

https://doi.org/10.15017/4485342

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2020/2021, pp.1-28, 2021-08. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International

論文

金田平一郎旧蔵書

和仁かや[†]　梶嶋政司[‡]　山根泰志[§]　宮嶋舞美[※]

<抄録>

昭和初期から第二次世界大戦直後の九州帝国大学法文学部で法制史講座を担った金田平一郎博士の旧蔵書は，没後その多くが九州大学に納入され長らく分散排架されていたが，70 年近くを経てこの度集約・文庫化に至った．本稿ではかかる経緯や目録リストを含めた概要とともに，復元された旧蔵書から判明する金田の関心や当時の学問環境の一端，並びに新規寄贈資料から明らかとなった『御触書集成』刊行にまつわる知見を紹介し，「文庫化」という営為が齎す意義についても考察する．

<キーワード> 金田平一郎，九州帝国大学，法文学部，九州文化史研究所，箱崎，図書館，資料保存，個人文庫，法制史，学問史，大学史，御触書集成，近世債権法，歴史資料，地域史料

Kaneda Heiichiro Library

WANI Kaya, KAJISHIMA Masashi, YAMANE Yasushi, MIYAJIMA Maimi

はじめに

2017 年 7 月 26 日，箱崎キャンパスから伊都キャンパスへの移転がほぼ一年後に迫っていたその時，ひとつの個人文庫が誕生した．九州帝国大学法文学部・九州大学法学部教授であった金田平一郎博士（1900-1949）の旧蔵書が，没後九州大学に納入され 60 有余年の間分散排架されたままであったところ，この度集約の上，「金田文庫」の設置に至ったのである．

ある個人や機関の旧蔵書が，様々な理由により持主の手を離れた場合，廃棄や分散的な売却を免れある程度一括して図書館に収められるのは，もとより幸運なケースではある．ただその場合にしても，受入の際に一旦分散排架されてしまうと，後に再集約し，一体性を持ったコレクションとして復元されることはまずない．労力や排架スペース等の問題もさることながら，そもそも分散し図書館の蔵書の中に埋もれたものはコレクションとして意識されず，次第にその存在自体が忘れられるからである[1]．確かに東京大学の鷗外文庫[2]や東北大学のミュンスターベルク文庫[3]のように，個人の旧蔵書は「一つにまとめて排

† わに かや　早稲田大学法学学術院教授，九州大学附属図書館研究開発室特別研究員
（〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1）　E-mail：kaya2018@waseda.jp
‡ かじしま　まさし　九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門助教，附属図書館研究開発室室員
（〒819-0395 福岡市西区元岡 744）　E-mail：kajishima.masashi.371@m.kyushu-u.ac.jp
§ やまね　やすし　九州大学附属図書館図書館企画課企画係
（〒819-0395 福岡市西区元岡 744）　E-mail：yamane.yasushi.188@m.kyushu-u.ac.jp
※ みやじま　まいみ　九州大学附属図書館芸術工学図書館情報サービス係
（〒815-8540　福岡市南区塩原 4 丁目 9-1）　E-mail：miyajima.maimi.313@m.kyushu-u.ac.jp

[1] 山根 2009，及び森田 2016，40 頁以下．

[2] 1923 年の関東大震災によって蔵書が灰燼に帰した東京帝国大学附属図書館では，復興期に国内外から寄贈された多くのコレクションは，すべて図書館の分類基準に従い，分散排架されていた．森鷗外（1862-1922）の旧蔵書「鷗外文庫」https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/collectionall/ogai も，受入時に「文庫」としての冊子目録も一応は作成されていたもののこの例外ではなく，2005 年度より開始された「鷗外文庫プロジェクト」により初めて集約・別置化が実現した．江川 2007，出口 2012．後掲註 5 も参照．なお，本稿著者の一人である山根は，2012 年 11 月，東京大学総合図書館において，「鷗外文庫プロジェクト」についてお話を伺う機会を得た．ご対応いただいた東京大学附属図書館の皆様と，調査の機会を与えていただいた研究開発室員の中里見敬教授（九州大学大学院言語文化研究院）に感謝申し上げる．

[3] 大正末期に東北帝国大学法文学部初代教授らによって購入された，ドイツの東洋美術史家オスカー・ミュンスターベルク（1865-1920）の旧蔵書からなる同文庫については，小川 2018a，同 2018b．

架するのが適切」[4]という考えのもと，別置化が進められた例もある．しかしそれらは稀有な事例であって，対象が重要かつ著名人物の旧蔵書であったとしても，かかる考え方が必ずしも図書館の共通認識になっているわけではない[5]．

九州大学ではキャンパス移転を機として，それまで分散排架されていたいくつかの旧蔵書について集約するに至ったが，その中でも金田文庫は，設置までの経緯やその内容はもとより，洋装本から古文書まで複数の形態に亙り，排架場所も広範囲に跨っていた個人の旧蔵書を集約・文庫化したという点からもユニークなものである．本稿ではかかる事情とともに，この過程で新たに判明した法制史学の基本史料である『御触書集成』刊行にまつわる知見を紹介し，図書館において決して一般的とはなっていない「文庫化」という営為が齎す意義についても考えてみたい．

1. 金田平一郎と九州大学・金田文庫の概要

金田平一郎は，東京帝国大学法学部及び同大学院において，法制史学のパイオニアの一人である中田薫（1877–1967）の指導下で法制史を学んだ．1928 年末には日本法制史担当の講師として，創設間もない九州帝国大学法文学部に着任し，1930 年に同法制史講座助教授に就任した[6]．在職中は，とりわけ近世日本を対象とした法制史学の研究・教育に邁進し，重要な先駆的成果を上げている．第二次世界大戦を挟む激動期を経て，1948 年 6 月には第 13 代目の図書館長に就任し，敗戦後の図書館及び蔵書の再建にも着手したが，1949 年 10 月に 49 歳で九州大学附属病院にて病没した．主著に『近世債権法』（1948 年），『近世民事責任法の研究』（学位論文，1949 年提出，2018 年刊行）がある．九大に在職した 20 年余りの間には，1934 年に法文学部に設置された九州文化史研究所（現・九州大学附属図書館付設記録資料館・九州文化史資料部門，以下「文化史」と略）を主たる拠点としつつ書籍・古文書の蒐集にも精力的に取り組み[7]，附属図書館はもとより他分野にも跨る基礎的資料群の形成に大きく寄与している．

没後，金田個人の蔵書はすべて処分・売却を余儀なくされたものの，うち一部を九州大学法学部が 1951 年 3 月 23 日付でつね子（つね）夫人より購入した．金田文庫をなすこの九大購入分の概数は，購入記録（『九州大学附属図書館図書原簿（和漢書）』，以下「台帳」と略）によると合計で 417 部 1098 冊であるが，本稿執筆に際して改めて確認したところでは以下の通りとなる．

洋装本（中央図書館蔵）	【別表１−１】：	211 タイトル 366 冊
和綴本・古文書（記録資料館・法制資料部門蔵）	【別表１−２】：	249 タイトル 989 点
	合　計：	460 タイトル 1355 点[8]

上記はいずれも今回の文庫化以前に既に九大図書館所蔵資料としては登録されていたものであるが，これ以外に，2017 年にご長男の金田久仁彦氏とご次男の金田史麻呂氏から九州大学に寄贈された個人資料がある（2017 年 9 月 20 日受入申請，同 11 月 15 日法学部図書委員会にて承認）．書簡 200 通余り，学生時代の講義筆記ノート等 20 冊の他，日誌やスクラップブック，弔辞，抜刷等 100 点余りのこれら資料もまた，金田文庫の資料として新たに登録した上，古文書と併せて所蔵されており，公開に向けた作業が進行中である[9]．

2. 金田文庫の設置

2-1. 九州帝大における金田の足跡再発見

法制史学，とりわけ近世日本を対象としてこの学問分野を本格的に展開した金田について，その研究資料の一部が九州大学にあること自体は，これまでも認識はされていた[10]．しかしながら，49 歳と比較的若くして没したことに加え，金田を直接知る弟子たちの戦死，病没，転出が相次いだこともあって，史料蒐集を含めた九州帝大における研究活動の実態については長らく知られてこなかった[11]．

2015 年 4 月，予てから学問的著作のみならず，九州大

---

[4] 小川 2018a，109 頁．

[5] 図書館において集約・別置化が如何に困難かは，森鷗外の旧蔵書である鷗外文庫ですら，早くから分散排架が問題視され別置化への強い要望もありながら，実現までに受入より 80 年以上を要したことからも窺えよう．柳生 1973 参照．また東京大学は，戦後に新設された大学・機関に重複本を大量に移管したが，その中には前述の関東大震災後の復興期に寄贈された多くのコレクションも含まれており（青田 2014），結果的にコレクションの大量的な解体・散逸にも繋がった．新設機関における蔵書の充実を重視した対応とはいえるが，そもそも当時はコレクションの維持ないし復元ということ自体が意識されていなかったのであろう．

[6] 以下金田の経歴についての詳細は，和仁 2016，和仁・梶嶋・中川 2018，和仁 2018．なお吉原丈司編「金田平一郎博士略年譜・著作目録」https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf も参照．

[7] 文化史での活動については梶嶋 2006 及び宮本 1978，212–3 頁，同 233 頁以下を参照．

[8] 本稿執筆時点（2021 年 6 月）での金田文庫ウェブページには，台帳に依拠した数量が記載されている．

[9] 既に翻刻した個人資料として，「日誌」（和仁・梶嶋 2018）がある．

[10] 蔵書の購入については，九州大学法学部百年史編集委員会 2015，723 頁参照．また法制資料部門所蔵古文書への金田の関与を指摘したものとして，植田 2007，7 頁．

[11] 和仁 2018，340 頁．

学法制史料（記録資料館・法制資料部門（以下「法制」と略）所蔵史料）の主たる蒐集者としての金田に関心を持っていた和仁が，九州大学法学部准教授として着任した（以下，本「２．金田文庫の設置」での名称や肩書等は，原則としていずれも 2015-8 年当時．併せて別表１－２末尾掲載の「別図・箱崎地区」も参照）．折しも箱崎から伊都キャンパスへの移転を控えた時期でもあったことから，着任直後より「法制」資料の担当者として，同資料の移転準備作業に着手し，まずは同資料の詳しい来歴調査を進めていた[12]．その最中の 2016 年初頭に，梶嶋に関連資料について問い合わせた際，経済学部の秀村選三名誉教授がしばしば文化史を来訪され金田についても話されているゆえ「法制」についてもご存知なのではないかとの教示を受けた．この時点では不覚にも，金田と秀村名誉教授との接点には思い至っていなかった．従って即座に梶嶋に仲介を依頼し，2016 年 2 月 24 日，文化史閲覧室において初めて同名誉教授にお目にかかる機会を得た．終戦直後に金田の日本法制史講義を聴講し，直接指導も受けていたという秀村名誉教授とのこの日の対話は 3 時間近くに及んだが，学問的著作のみからは凡そ知り得ない証言の数々に，時間が経つのも忘れて聞き入った[13]．これらを踏まえて教授会議事録等の大学関係資料を改めて繙いてみると，これまで見えていなかった金田の具体的な足跡が鮮明に浮かび上がってきたのである．この成果はひとまず同年末に「金田平一郎と九州帝国大学」として『法政研究』上で公表したが[14]，この時点では，同年末に一応のインスペクションを終えた「法制」所蔵史料の調査を，得られた知見に基づき続行する心算に留まっていた．

ところが事態は意想外の展開を見せた．刊行直後の 2017 年１月 16 日，ご長男の金田久仁彦氏が，論文が掲載された『法政研究』購入の問い合わせを，法学部研究補助室に寄せられたのである[15]．驚いて折り返しの連絡を差し上げると，お父上のプライヴェートに関する詳細や多くのご遺品について，これまでまったく知り得なかった数多のご教示をいただくことが出来た．これを契機に以後交流を重ねる中で，金田に関する知見は飛躍的に増大する．中でも後に九州大学にご寄贈下さった日記を始めとするご遺品は，九州帝国大学史からも重要な新出資料であるのはもとより，金田の学問関心を総体的に把握する決定的な手がかりであり，これが前述論文執筆の過程で見出した未公刊かつ絶筆の博士論文[16]を出版する決意を固めることともなった．

2-2. 箱崎地区における既設諸文庫の状況と金田文庫の新設

「法制」所蔵史料調査と並行して博士論文出版に向けた電子データ化作業を進めていた最中の 2017 年５月連休明け，これまたまったく思いがけず，図書館に残された金田の旧蔵書購入記録に関する情報が齎された．予てからこの記録の存在を把握しており，新中央図書館（伊都）で資料の先行移転を担当していた山根が，和仁前述論文の刊行を受けて，まずは文系合同図書室（箱崎地区文系諸学部の蒐集資料を所管）資料サービス係であった宮嶋に情報提供した．そして宮嶋はこの情報を，これまでも学位論文の所蔵や「法制」調査に関して度々同図書室へ問い合わせや相談をしていた和仁に，文庫化の可能性をも含めて伝えたのである．台帳の存在はもとより想像すらしなかった文庫化は，ご遺族や学位論文出版作業との関係からも願ってもない話であった．

そもそも金田の旧蔵書は，受入時になぜ文庫とされず，分散排架されたのか．ここでこれまでの九州大学における文庫等のコレクションの扱いについて説明しておきたい．

九州大学では，個人や機関の蔵書を受入れた場合，それを文庫として扱うか否かに関する規程や基準がないのはもとより，「文庫」の定義自体も明確ではない[17]．ゆえに，文庫化に至る経緯も，旧蔵者や受入に関係した教員等の意向のみ，あるいはそれに加えて受入部局の図書委員会や教授会の決定を受けるなど区々であり，実際に，数量，枠組，名称，識別・明示方法，排架をめぐって下記のような違いが見られる．

A）数量

一般的にコレクションの数量は，それを文庫として扱うか否かの大きな指標であるが，数十点程度の旧蔵書で文庫となったものもあれば，千点を超える規模であっても，金田の旧蔵書と同様の扱いをされることもあった．

B）枠組

個人または機関の旧蔵書（またはその一部）を一括して購入もしくは受贈したものがほとんどであるが，法学部が設置した明治文庫（明治期に刊行された法律関係図書

---

[12] 「法制」自体の経緯を含めた詳細については別稿を予定している．

[13] 秀村 2018a，8 頁以下，および秀村 2018b にもその一部が収録されている．

[14] 和仁 2016.

[15] かかる経緯につき，和仁「あとがき」（金田 2018 所収）参照．とりわけご遺族と直接お繋ぎ下さった吉原丈司氏，吉原達也広島大学名誉教授のご厚意に改めてお礼申し上げる．

[16] 金田 2018.

[17] これに対して，たとえば東北帝国大学附属図書館『閲覧の栞』（自昭和十二年至昭和十三年）では，特殊文庫について，「相当の部数に上る既蔵の図書を，一括して購入，若くは，受贈したもの」と定義し，「受入の際，之を分解して一般の分類に組込んだもの」を第二特殊文庫とし，「さうでないもの」を第一特殊文庫としている．小川 2018b 参照．

を集めたもの）のように，既に受け入れていた資料から特定の基準に基づいて抽出し，新たに文庫として扱ったケースも見られる．また，追悼や退官等の記念事業で集めた寄附金により購入した資料群を記念文庫としたものもある[18]．

C）名称

「○○文庫」と旧蔵者の苗字または雅号等を冠した文庫名が一般的であるが，「井口教授旧蔵本」のように旧蔵者名を示す印が資料現物に押印される，あるいは『浅野助教授遺書購入目録』といった独自の目録が作成されるなど，「文庫」という名称を持たなくても，それに準ずるコレクションとの認識で扱われる場合もある．

D）識別・明示方法

文庫ないしそれに準じるコレクションとして扱われた場合でも，その識別・明示の仕方は下記のように様々である．

a）請求記号に文庫名を入れている
b）文庫名を記載したラベルを資料現物の外側に貼付している
c）資料現物の内側に文庫印を押印している
d）目録（カード・ウェブ含む）に文庫名を表示している
e）文庫目録（冊子体・ウェブ含む）を作成している
f）所蔵部局の刊行物あるいはウェブサイトで所蔵文庫として紹介している

E）排架

「萩野文庫/オ/33」のように請求記号に文庫名が入るなど独自の分類を持つ文庫は，物理的な一体性を維持したまま別置されたものである．しかしながらこれ以外の，各部局や教室が独自に定めた図書分類が付与された文庫では，個々の資料は各分類の書架に分散排架され，コレクションとしての一体性は解体されている．また，鷲見文庫のように，別置分と分散排架分の双方が含まれたものもある[19]．

以上A～Eのうち特に重要なのはEの排架であって，如何に数量が多く，文庫名が明示されていても，館内に分散排架されていれば，文庫としての存在を認知され得ない．2019年に附属図書館が発行したコレクションガイドには，九州大学が所蔵する主な文庫・コレクションの一覧130件が掲載されているが[20]，受入時から文庫として扱われ，別置までされていた文庫は，うち半数にも満たない．すなわち九州大学には，書庫内に混排され，結果的に埋もれたコレクションが多数存在していたのであり，金田の旧蔵書のように質・量ともに充実したものであっても，例外ではなかったのである．

2007年より開始された貴重文物講習会（附属図書館主催の九大所蔵コレクションについての講習会）やそれを契機とした調査により，上記のような埋もれたコレクションの存在が徐々に判明した[21]．うち一部については，文庫ラベルの貼付や目録データの整備（文庫名の表示や文庫目録の作成），ウェブサイトでの案内ページの作成等により文庫であることを明示し[22]，さらに小規模な文庫の中には集約・別置化まで試みられたものもあった[23]．しかしスペースや労力の観点から大多数の文庫の別置化は困難であり，それらの視認性の低さは課題であった．

かかる状況に加えて，キャンパス移転が，各文庫の死蔵化・散逸を決定的にしかねないことも判明した．その理由の一つは，新中央図書館（現伊都キャンパス）に導入されることとなった自動書庫である．自動書庫では基本的に，個々の資料が格納されるコンテナは固定されず，一度出庫した資料の再入庫，すなわち出納・返却のたびに異なるコンテナに格納されるため，当初特定の資料群をまとめて入庫したとしてもいずれ分散・解体されてしまう．そこで，既に集約・別置済みの文庫群については，特定の資料群が格納されるコンテナを固定することで資料の一体性を物理的に維持する固定コンテナという機能の活用によって対応することとした．しかし，混排状態にある文庫群は，そのまま通常のコンテナに分散格納されてしまう．ゆえに，いったん自動書庫に入庫した後に取り出そうとすれば，格納されているコンテナすべてから一つ一つを取り出すという，気が遠くなるような膨大な作業と時間とを要し，事実上文庫の復元は不可能となる．

もう一つは重複資料の除籍の問題である．移転コストの削減という大学本部の方針下においては，本来移転の対象とするべき膨大な資料の分量を可能な限りスリム化することが求められ，その中で重複した資料の除籍を大量に進めることをも余儀なくされた．図書館の基本方針としては，文庫資料は除籍対象から除外していたが，混排されていることで選別が困難となり，実際に文庫資料と認識されないまま除籍されてしまった資料が少なからず

---

[18] 代表的な例として，旧制福岡高等学校校長を務めた秋吉音治（1876-1937）にちなんだ秋吉文庫が挙げられる．同校の敷地であった旧六本松キャンパスには，かつて「文庫之碑」と銘打った石碑も存在した．「華麗なる旧制高校巡礼・福岡高等学校」http://qsay55.starfree.jp/F0.html 参照．

[19] 田村2009参照．

[20] 九州大学附属図書館2019，20-25頁．

[21] 山根2009，相部・梶原・古賀・星子・山根2017参照．

[22] 山根2009，29頁以下，及び徳元2012参照．

[23] 山根2011参照．

存在した.

以上の問題への対処を含め，附属図書館における伊都キャンパスへの資料移転に向けた検討を重ねる中で，中央図書館所蔵の文庫のうち優先度が高いものについては，資料の先行移転により確保できたスペースに集約・別置した上で移転させることとした[24]（表１）.

表１　キャンパス移転期に集約された旧中央図書館所蔵混排文庫・コレクション（山根作成）

コレクション名	旧蔵者	数量	移転先
廣瀬文庫	私立福岡図書館（廣瀬玄鋹）	約 10,800 冊	洋装本は壁面書架に，和装本は準貴重書室に別置（一部貴重書庫）
江島文庫	郷土史家　江島茂逸	233 冊	貴重書庫に別置
江藤正澄関係資料	国学者　江藤正澄	224 冊	貴重書庫に別置
音無文庫	天文学者　寺尾壽	約 12,000 冊	洋装本は自動書庫固定コンテナに格納，和装本は準貴重書室に別置（一部貴重書庫）
樋口文庫	漢学者　樋口和堂	約 1,900 冊	準貴重書室に別置（一部貴重書庫）
近藤文庫	漢学者　近藤畏斎	約 2,200 冊	準貴重書室に別置（一部貴重書庫）
西田文庫	漢学者　西田幹治郎	約 2,000 冊	準貴重書室に別置（一部貴重書庫）
逍遥文庫	漢学者　宗逍遥	約 2,800 冊	準貴重書室に別置（一部貴重書庫）
朴庵文庫	漢学者　森本儀太郎	330 冊	準貴重書室に別置（一部貴重書庫）
楽地文庫	漢学者　高橋楽地	698 冊	準貴重書室に別置（一部貴重書庫）
大井文庫	検事　大井七郎	795 冊	準貴重書室に別置（一部貴重書庫，自動書庫）
益田文庫	中学修猷館教師　益田古峯	約 2,100 冊	準貴重書室に別置（一部貴重書庫，自動書庫）
郡虎彦旧蔵本	国際的劇作家　郡虎彦	270 冊	壁面書架に別置（一部貴重書庫）
福岡地方裁判所旧蔵本	福岡地方裁判所	655 冊	自動書庫固定コンテナに格納（一部貴重書庫・準貴重書室）
渡邊文庫	理学部教授　渡邊久吉	887 冊	理系図書館 3 階に別置
杉文庫	理学部教授　杉健一	374 冊	理系図書館 3 階に別置
西田藤次文庫	植物検査所神戸支所初代所長　西田藤次	666 冊他報告書抜刷類	理系図書館 3 階に別置
中田文庫	農学部教授　中田覚五郎	132 冊他報告書抜刷類	理系図書館 3 階に別置
内田文庫	農学部教授　内田恵太郎	約 2,400 冊	理系図書館 3 階に別置（一部中央図書館貴重書庫）
青島鹵獲書籍	青島守備軍参謀部	210 冊	自動書庫固定コンテナに格納
大森治豊文庫	福岡医科大学初代学長大森治豊	613 冊	医学図書館に集約

※集約した時期はコレクションにより異なる
※数量は主に図書原簿等の受入時の記録による
※移転先で特に記載がないものは現・伊都キャンパス中央図書館

[24] 優先度については，コレクションの質や量，旧蔵者やその蔵書の研究上・ブランディング上の意義等を総合的に判断して決定した．但しバルト文庫（ライプツィヒ大学教授パウル・バルト旧蔵），シュツンプ文庫（ベルリン大学教授カール・シュトゥンプ旧蔵），グロース文庫（オーストリアの政治家・経済学者グスタフ・グロース旧蔵），井口教授旧蔵本（法文学部教授井口孝親旧蔵）等のように，優先度は高かったものの，資料が文系地区にまで分散排架されていたため，集約を断念したものもある．

一方，文系合同図書室所蔵の諸文庫については，書庫の狭隘化によりキャンパス内の複数箇所・建物に保管場所が分散しており（別図参照）集約が困難なこと，比較的当初から文庫として別置されていたものが多かったことなどから，この計画に含まれていなかった．金田の旧蔵書に至っては，全容の把握はおろか，正確な所蔵場所すらこの時点では判明しておらず，加えてキャンパス移転後は，学部図書室の名残を留めていた文系合同図書室が中央図書館に組織的にも統合されるため，手続上も文庫化は格段に難しくなることが予想された．従って文庫化するとすれば移転前のこの時に実現させるしかない．かくして研究者・図書職員それぞれの立場からの関心と意向とは直ちに合致し，具体的な動きが始まった．

早速，箱崎地区図書館での移転作業の合間を縫うようなかたちで，台帳に基づき各所に分散・混排した対象資料の確認・集約に着手した．洋装本は，その大半の 300 冊以上は法学部図書分類が付されて文系合同図書室の書庫に排架されていたが，箱崎キャンパス内の他の保管場所や伊都キャンパスの新中央図書館に先行移転した資料中にも合わせて 50 冊ほどあることが判明したため，ひとまず文系合同図書室所蔵分を同室の一画に集約した（6 月 22 日完了，他箇所の所蔵分も含めた集約は 9 月中旬に完了）．和綴本・古文書類についても当初は所在すら不明であったが，貴重書室排架の「法制」所蔵資料に混排されている可能性が高いと思われたことから同資料を改めて調べ，台帳に記載されたかつての登録番号を手掛かりとして確認・抽出を行い，現行の請求番号と照合・同定した（7 月 5 日完了）[25]．洋装本の集約は主として宮嶋，和綴本・古文書類の調査・確認は和仁が，山根から情報提供を受けつつ行った．以上の調査・集約作業を進めると同時に，文庫化の要望書を和仁の名義で 6 月 11 日に法学部図書委員会に提出し，7 月 19 日に同委員会で承認，7 月 26 日の法学研究院教授会での報告を経て「金田文庫」の設置が正式に承認された．併せて目録の補完・修正作業も行い，9 月 15 日に，図書館のホームページ上で文庫ページおよび目録を正式に公開するに至った (https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/kaneda)．

2-3. 文庫の整備と展示会開催

設置承認の目処が立った 7 月 22 日・29 日，酷暑の中，山根，宮嶋，和仁の 3 名は箱崎キャンパスの和仁研究室に集まり，長時間にわたって文庫整備に向けての検討を行った．この際課題として挙がったのは，まず移転後の文庫としての独立性及び視認性の確保である．集約が完了した洋装本は，文庫化が承認されたことで，他の法学部所蔵の文庫と同様，分散させずコレクションとしての一体性を物理的に保持したまま自動書庫の固定コンテナへの入庫が可能となったが，さらに視認性を確実にするため，背に「金田文庫」のラベルを貼付することとした．問題は「法制」に混排されたままの古文書類であったが，折しも移転に向けて「法制」所蔵資料を再整理の上，中性紙箱へ詰め直す作業の実施が決定したため，文庫分資料約 1000 点は改めて抽出し，別箱に分別することとした[26]．この作業は 10 月初頭より開始して凡そ 2 ヶ月後の 11 月 28 日に完了，ここに漸く「金田文庫」は名目実体ともに独立したのである．

もう一つの課題は文庫の周知であった．とりわけ 2017 年初頭以降ご遺族から提供を受けた個人資料の持つ重要性や，文庫化によって明らかとなった数々の知見に鑑みて，設置に関わった 3 名は比較的早い段階から，文庫設立の意義を示しておきたいとの強い意欲を共有していた．そこで，金田による史料蒐集の拠点でもあった文化史の現専任スタッフであり，予てから「法制」古文書の扱い等についてしばしば助言を仰いでいた梶嶋にも参加を依頼し，金田文庫を通じて戦前の箱崎・法文学部における多面的な学問活動を，まさにその箱崎キャンパスとの別離に際して紹介する趣旨の展示を企画した(11 月 21 日企画書提出，12 月 5 日図書館において承認)．

監修者は和仁，梶嶋の他，これまでも法制史料の整理等に関与していた中川晃一（人文科学府博士課程）を新たに法学府 RA（任期 2017 年 12 月 1 日～2018 年 3 月 31 日）として加えた 3 名とし，山根，宮嶋の合計 5 名で準備作業に着手した．この間法学研究院との共催や，同研究院及び法学部同窓会による箱崎キャンパス惜別企画「大人のオープンキャンパス」(2018 年 3 月 24 日実施）とのタイアップも決定し，2017 年末から翌 2018 年 2 月にかけて 3 回ほどの打ち合わせを行いながら解説パネル 20 枚，展示資料 43 点，及び金田の生涯を紹介したショートムービーを作成，「さよなら箱崎キャンパス企画展示　金田平一郎と九州大学附属図書館」(2018 年 3 月 1 日

[25] 後述の通り，この過程で，従来の法制史料の電子目録上，金田文庫に該当するものを含めた多くの資料が未掲載となっていたことが判明した．このことが電子目録の大幅改訂の大きな契機となったが，詳細は別稿に譲る．

[26] この抜本的整理・目録改訂を含めた作業は，2017 年度九州大学法学部和仁ゼミナール（日本法制史）参加者の多大な協力によって進められた．

～26 日）の開催に漕ぎ着けた[27]．会期中にはご遺族のご来場も叶い，展示のみならず，移転前の金田文庫蔵書(洋装本)も直にご覧いただくことが出来た．また 3 月 10 日には秀村名誉教授の参加も得て監修者によるギャラリートークを実施した（写真 1）．資料を前に当時の法文学部での実体験を語っていただいたこのセッションは，金田文庫の意義を改めて強く認識する上でも貴重な機会となった[28]．

写真 1
ギャラリートークの様子（2018 年 3 月 10 日）

2-4. 伊都キャンパスへの移転と現況

展示終了後，文庫もいよいよ箱崎から伊都キャンパスの新中央図書館（現・中央図書館）に移転することとなった．文系合同図書室の一画に集約していた洋装本は，自動書庫の固定コンテナ 8 個分に収め，「法制」内の文庫和綴本・古文書は，最終的に中性紙マルチボックス 10 箱，同大箱 2 箱に分別した上で 7 月 23 日に搬出，記録資料館の収蔵庫に収めた[29]（写真 2，3）．追加寄贈分についても中性紙箱 7 箱に収め，古文書と併せて仮排架した．

写真 2
記録資料館収蔵庫に排架された金田文庫
青色ラベル貼付分．ピンク色のラベルは「法制」史料

写真 3
マルチボックスに収められた和綴本・古文書

この搬出を機に，金田文庫の和綴本・古文書目録も再度見直しを行い，2019 年 2 月に「法制」目録とともに改訂版を公開して現在に至っている．

3. 文庫化された旧蔵書の特徴

以上の過程を経て設置され全容が明らかとなった金田文庫の洋装本，和綴本・古文書につき，本稿では改めてリストを掲げておくと同時に，その特徴を概観しておきたい．

①洋装本

400 冊弱の蔵書は，法制史の研究書を中心に，学生時代の教科書類（上杉慎吉（1878-1929 憲法），三潴信三（1879-1937 民法），立作太郎（1874-1943 国際法）他），法学政治学及び経済学，歴史学，民俗学，文学等広く隣接分野にも跨る諸文献を含む．自身が購入したもののみならず，執筆者からの献本も多く，総体として，金田の学問関心はもとより昭和初期から戦後直後にかけての九州帝大法文学部を軸とした学問環境が良く反映されている．

主立ったものを幾つか挙げておくと，まず中田薫を始め，三浦周行(1871-1931)，牧健二(1892-1989)，石井良助（1907-1993 以上日本法制史），船田享二（1898-1970)，原田慶吉(1903-1950 以上ローマ法)，栗生武夫（1890-1942 西洋法制史）らによる初期法制史学の代表的著作の初版本及び著者献本があり，言うまでもなく金田本人の書き込みとも併せて法制史学史上も貴重な資料である．また九州帝大の同僚であった大澤章（1889-1967 国際法），今中次麿（1893-1980 政治学）ら，とりわけ宮本又次（1907-

[27] 詳細は和仁・梶嶋・中川 2018．中央図書館展示案内 https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/events/14242 及び西日本新聞「地域資料生かし法制史研究　金田平一郎・九大元教授　業績振り返る企画展」（2018 年 3 月 9 日 15 面）も参照．なおショートムービー作成に際しては，小川洋二氏の多大なる尽力を得た．
[28] 『九州大学附属図書館年報　2017/2018』http://hdl.handle.net/2324/1935649　7 頁，和仁 2019.
[29] 物量としては「法制」史料の 5%に相当する．

1991 経済史）からの多数の献本は，当時の法文学部スタッフ間での学問交流を具体的に示している．

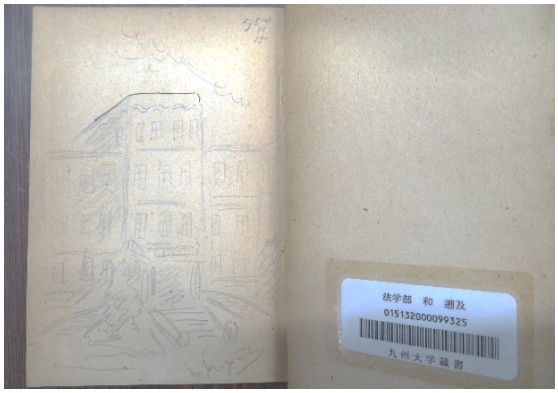


写真 4
宮本又次からの献本『経済史上のフランス革命』扉
著者直筆の旧法文学部本館スケッチと署名がある

経済史関係書が目立つのは，大学蔵書形成上も重要な役割を果たした遠藤正男（1901-1940），宮本ら経済史スタッフとの近しい関係のみならず[30]，債権法制という自身の問題関心，加えて後述するような経済史分野そのものへの意識の体現でもあろう．さらに民俗学者の早川孝太郎（1889-1956）[31]や桜田勝徳（1903-1977）[32]，戦後福岡民芸協会会長を務めた野間吉夫（1908-1983）[33]からの献本や，九州地域の自治体・各種団体史からは，九州帝大スタッフとして築いていた人脈及び学問ネットワークが窺われ，これら書籍の多くに残されている本人による購入情報等の書き込みと併せたさらなる詳細な跡付けも可能であろう．九州帝大におけるかかる学問交流については，「当時，農学部には江崎悌三，木村修三教授，法文学部には金田平一郎教授らがおられて，両学部で月に一ぺんくらい懇話会をもって誰かの話をきいていた」という野間の回想が，往時の状況を端的に示している[34]．その他，出身地と所縁の深い水戸学関連[35]，また仏教関連[36]の文献が多く含まれているのも本文庫の性格を表すものといえる．

研究書以外では，群書類従，司法資料（御仕置例類集）といった基本史料集の他，井原西鶴・滝沢馬琴・近松門左衛門等の全集（帝国文庫版），日本随筆大成等が，本文庫の特徴付けるものとして挙げられよう．中でも随筆大成の表紙裏には，「奉公」「知行割」等，問題関心に即したキーワードを，本人の自筆で多数抽出し書き留めたメモが貼付されており（写真 5），金田の思考や検討の過程を具体的に窺い知る上での重要な資料でもある．従来いわゆる「法科派」の代表格として，西洋近代法からの関心という側面にのみ着目して評価されがちであった金田であるが，実際には広く隣接分野を踏まえ，中でも文学作品を基礎的な教養に留まらず研究素材としても重視していた姿勢を，ここにも明確に見出すことが出来る[37]．

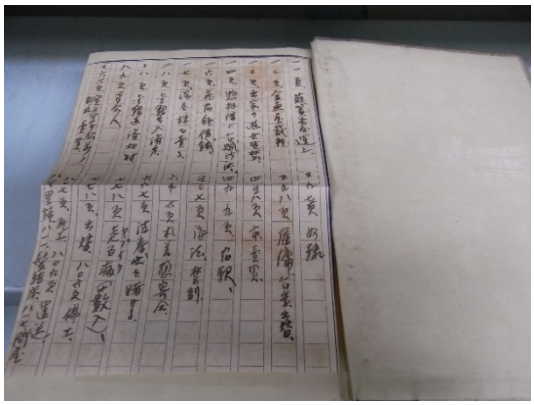


写真 5
『日本随筆大成』の扉に貼付された自筆メモの一例

②和綴本・古文書

法制史料に金田の個人蔵書も含まれていたことは，今回の文庫化で初めて具体的に明らかとなったが，これらの特徴的な点もいくつか挙げておこう．

第一には，金田の主たる研究素材をなした近世期の大量の質地証文および借用証書類といった文書群である．近世期に独自の展開を見せた債権法制を解明するための手がかりとして，法制史学の観点から

---

[30] 和仁 2016，493 頁以下．
[31] 愛知県出身の早川は，1933 年より九州帝大農学部農業経済研究室助手として小出満二の指導を受け，九州地域に強い関心を持つようになった（宮本 1957，93 頁）．後掲註 44 も参照．
[32] 宮城県出身の桜田は，漁村・漁業研究のパイオニアとしても知られるが，1930 年代前半に福岡を居所として調査に従事しており，その折に金田とも親交を持ったものと思われる．桜田 1982，561-3 頁及び中野 2016，73 頁参照．
[33] 平成 29 年福岡市博物館企画展示 No.493「野間吉夫と九州の民芸」
http://museum.city.fukuoka.jp/archives/leaflet/493/index.html も参照．
[34] 野間 1973．
[35] 前掲註 6 諸文献，とりわけ長男金田久仁彦氏による手記（金田久仁彦 2018）を参照．
[36] 仏教への信仰や関心は，「日誌」（和仁・梶嶋 2018）でも表明されており，さらに九州帝国大学仏教青年会とも法律相談活動等を通じて関わっていたことが，弟子の一人であった服藤弘司「法律扶助部　巡回相談手記」（『九州帝国大学新聞』二六〇号（1942 年 12 月 20 日））からも窺える．「九大仏青活動日誌抄（1907～96）」
http://oyayubi.fan.coocan.jp/bussei/history.html の，1940 年，1942 年記事も参照．
[37] 端的な一例として和仁・梶嶋 2018，411 頁．かかる金田の学問基盤につき，和仁 2018，340 頁の指摘も参照．

証文類に学術的な価値を見出し，本格的かつ積極的な活用を試みたのは金田の先駆的功績の一つであるが[38]，豊後国日田の千原家文書[39]，同国速見郡の荒木家文書，筑前国博多の町方文書を始め著作でも活用されていた九州地域のものに留まらず，出身地の常陸，所縁のあった諏訪[40]，あるいは佐渡，福島，三河地域のものなども含む．九州地域への関心を軸としつつ比較法的視点から近世債権法制度を俯瞰，解明しようとした姿勢が端的に反映されていると言える．

第二に多数の文例集の存在が挙げられよう．文例集もまた証書類と同様，近世債権法史研究の素材として金田が着目し蒐集に注力した史料群であるが[41]，文庫には江戸大坂の主立ったものを始め近世から明治初期にかけて刊行された 80 タイトルほどの文例集があり（文庫の和綴本・古文書全体の約 3 割に相当），いわゆる往来物及び書式文例集に関するまとまったコレクションをなす．これらは主に教育史や社会史的な観点から扱われることの多かったジャンルであるが[42]，早い段階で法制史からも注目されていたことが，本文庫からも判る[43]．その中の一つである大蔵永常『民家文章早引大成』は，金田がしばしば調査を行っていた日田の淡窓図書館で見出し，九州（日田）出身者によるものとの理由から入手に腐心したもので[44]，九州地域を重要な対象と見定め多方面から足掛かりを求めて検討しようとしていた姿勢も窺える．

第三に，学内既所蔵資料群との関連性である[45]．金田が草創期文化史の中核としてその基盤形成に寄与したことは，これまた既に指摘したが，戦前期から九州帝大に運び込まれ活用されつつあった古野家文書（筑前国鞍手郡）や千原家文書等の一部と思しきものが，相当数個人蔵書に含まれている．

「九州文化史研究所所蔵資料目録」（『法文論叢』26，1939 年）には，1939 年頃の文化史所蔵資料が記載されているが，古野家文書や千原家文書等の家文書の多くが「数量調査未了」とあり，戦前期の九州大学に各地の家文書が大量に寄贈され，整理が追いついていなかった状況を示している．古野家文書や千原家文書は，受入当時台帳に記載されておらず，九大の資産として登録されていなかった上に，それらは当初から文化史で受け入れると決まっていたわけでもなかった[46]．金田もこれら未整理資料群の研究や調査・整理・選別に関わっていたと見られ，その過程で研究素材として手元にあった資料群の一部が，急逝によって個人蔵書と見なされ，法学部の蔵

---

[38] 金田の学問関心については和仁 2016，同 2018 も参照．なお服藤 1983 は 594 頁，606 頁を始めとする随所で金田への意識を露わにしつつ，未だ証書研究が「断片的」に留まり「体系的」な研究はないとする．

[39] 後述のように，金田のみならず当時の九州帝大スタッフが早い時期から着目していた天領日田は，西国筋郡代が置かれ，九州幕領の政治的中心地であった．千原家は西国筋郡代の掛家として幕領の年貢米の収納に関与し，九州諸藩への公金貸し付けなども行っていた．楠本 1999 参照．なお金田のご長女眞智子氏によれば，千原家とは家族ぐるみの交流があり，しばしば互いの家を往来していたとのことである．

[40] 金田久仁彦 2018，356 頁．

[41] 金田「書誌雑題」（『福岡日日新聞』1937 年 10 月 7 日掲載）には，「自分の専門上の必要と興味から，年来法律生活関係文書の文案書の蒐集に意を用ひて居る」とある．同「薩南訪書片々」（『九州帝国大学新聞』二六四号（1943 年 4 月 20 日掲載））も参照．

[42] 前世紀の往来物に関する研究史を概観した小泉 2001 所収の石川松太郎による「刊行にあたり」を参照．同書では，金田文庫はもとより九州大学の資料は収録の対象とされていない．なお法や裁判に関する知識や情報の伝播手段との観点から着目した一例として八鍬 2015．

[43] 金田の師である中田は，早くも 1914 年に公表した「徳川時代ノ文学ニ見エタル私法」（同編『宮崎教授在職廿五年記念論文集』（有斐閣））において，文例集を多数引照していた．同論文に基づき，1923 年に和綴本として同『徳川時代の文学と私法』が刊行されるが，金田は自身の著作でも同書より多く引用するなど大きな影響を受けていた．金田文庫に収められたこの初版和綴本は，本人の書き込みから，学部学生として中田の講義を受講中もしくはその直前の 1924 年に購入されたものであることが判明する．扉には新聞記事からの切り抜きと思しき中田の肖像写真が貼付された上，多数の書き込みもみられ，早くから同書に深く親しんでいた様子が窺える．和仁・梶嶋・中川 2018 も参照．

[44] 金田「書誌雑題（続）」（『福岡日日新聞』1937 年 10 月 8 日掲載）．なお翌年刊行された早川孝太郎の著作『大蔵永常』（初版，非売品）を，「学界多年の要望」を達成した「経常ならざる良書」（『同』1938 年 11 月 20 日掲載）とし，また 1943 年に山岡書店から補訂版が刊行された際には，昨今多く刊行される伝記の中でも「本書に匹敵する如き学的労作必ずしも多くはない」「真の名著」（「生活文化　書評」『西日本新聞』1943 年 7 月 3 日掲載）と，きわめて高く紹介している．

[45] 学内複数箇所に跨って所蔵されている文書についての調査はなお今後の課題であろう．経済史研究室文書についてのかかる指摘として古賀 2017，20 頁．

[46] 古野家文書については，1940 年頃に写本類の整理が先行して開始され，1944 年に和漢書類のみようやく九大の資産として登録されたが，それらは資料の内容に応じて法文学部の各学科・講座に分蔵された．梶嶋 2021 参照．個人や機関の旧蔵書が解体され，分散排架されることが珍しくなかったことは前述した通りであるが，法文学部草創期において未だ利用可能な資料が充実しておらず，その蒐集が急がれていた状況の中で，原秩序の維持よりも利用の便が優先され，それは家文書も例外ではなかったことが窺える．

書として受け入れられたものと推測される[47]．なおこれらの文書群の蒐集と研究については，法文学部経済科の講師・助教授を務めていた遠藤の関与が知られているが，文庫におけるかかる資料の存在は，金田もまた法制史の立場から，当該資料群の研究と整理に関心を寄せていた証左とも言えよう[48]．

以上の和綴本・古文書の殆どは，文庫化の過程で改めてその存在自体が確認され，電子データ上では未掲載であったものである．これらに加えて，移転作業の過程で，個人的に蒐集したと思しき古文書がさらに，未登録の状態で多数見出された（写真 6）[49]．これを機にほぼ死蔵されていたこれら貴重な歴史資料の活用が進めば，債権法制や地域研究のさらなる進展も期待出来よう．

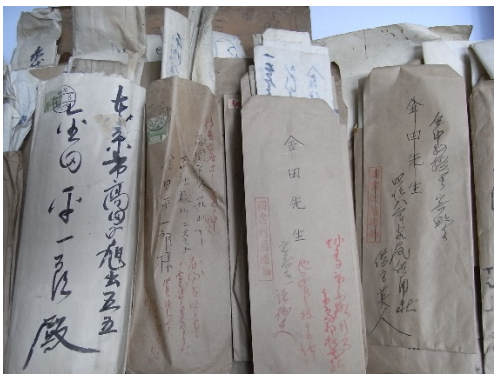


写真 6
新たに発見された未整理文書の一部

4. 『御触書集成』刊行経緯
－ 新たに寄贈された個人資料より

1．でも述べたように，今回の文庫化では，既に登録されていた旧蔵書の集約のみならず，新たに寄贈を受けた個人資料も併せて登録した．この資料群は，金田没後，故つね夫人が夫の遺品として大事に保管され，ご子息に受け継がれたもので，2017 年にご長男金田久仁彦氏，ご次男金田史麻呂氏より九州大学に寄贈された．存在自体，これまでまったく知られておらず，言うまでもなく，金田を軸とする昭和 10 年代から 20 年代初期にかけての人的交流[50]や研究活動はもとより，大学史の観点からもきわめて重要な一次資料である．整理中ゆえ現時点ではまだ未公開ではあるものの[51]，本資料より知り得る興味深い一例として，本稿では『御触書集成』（岩波書店，1934～41 年）刊行の経緯について紹介しておこう．

同書の第 1 冊目に当たる『御触書寛保集成』は，やはり中田薫の門下生であった石井良助（1907-1993），及び東北帝国大学法文学部助教授として赴任したばかりの高柳真三（1902-1990）の両名が，日本学術振興会の補助を受けて 1934 年に出版した[52]．とりわけ石井は，この後『近世法制史料叢書』『徳川禁令考』『御仕置例類集』『問答集』等，今日に至るまで法制史に留まらず近世史全般に及ぶ重要な基礎的史料集を次々と世に送り出していくが，『御触書寛保集成』はまさにその嚆矢である[53]．しかしながら，かかる大部の史料集刊行を，当時未だ駆け出しの研究者であった彼らが行うことについて，師弟や門下の間で様々な議論や思惑が交錯していたことが，金田に宛てた多くの書簡類から判明する．

そもそも同書の刊行は，石井が帝国図書館所蔵の写本を発見し，これを私的に写しておいたことが発端であった[54]．刊行 2 年前の 1932 年に東京帝大の助

---

[47] なお資産管理の観点からも，いつまでも九大の資産として登録されない未受入資料が存在する状況は望ましいことではないため，元々九大にあった未受入資料を，個人の蔵書を受け入れた際に，その中に含めて資産登録した事例は他にも存在する．前出の荒木家文書も「法制」にも所蔵されているが（台帳によると 1934 年に大分ハレルヤ書店より購入，未整理），同様の事情と思われる．

[48] 「研究室をのぞく（四）　史観と資料の問題特殊研究・日田金　遠藤講師（法文）に聴く」（『九州大学新聞』百十五号（1934 年 9 月 29 日掲載））参照．現にこれらの文書を活用した遠藤の著書『日本近世商業資本発達史論』（日本評論社，1936 年）には，金田に対する謝辞がある．和仁 2016，502 頁註 60 参照．なお目録が整備されたのは，千原家文書が 1979 年，古野家文書が 1985 年になってのことである（『九州文化史研究所所蔵古文書目録』十・十一（千原），十五（古野）として刊行）．

[49] これら古文書類には，金田 2018 でも活用された博多古門戸町の証文類を始めとする重要なものが多数含まれ，使用済み封筒等の再利用を通じて金田本人により分別整理されていた（写真 6）．九大への納入時期や経緯については不明であるが，状態からしてほぼ手をつけられることなく，旧貴重書室の一角で死蔵されていたようである．これらについてはひとまずご遺族からの寄贈というかたちで文庫に組み入れ，現在整理を進めている．

[50] たとえば，中田に「破門」されたかたちで九大を追われ，また金田の助教授就任にとって大きな阻害要因であったはずの前任者瀧川政次郎（1897-1992）とは，実際には瀧川の失職後も良好な関係にあったことが，瀧川からの書簡類よりも窺い知れる．瀧川の一件については和仁 2016，98 頁註 14 参照．

[51] 既述の展示や和仁・梶嶋 2018 では部分的に紹介している．

[52] 高柳・石井「序言」（高柳・石井 1934 所収）2 頁．なお 1934 年 4 月 28 日『東京日日新聞宮城版』の報道「徳川時代の法律研究で　栄えの高柳助教授　学術振興会から補助」によれば，対象となった研究題目は「寛保，宝暦，天明，天保度四集成の出版」（研究補助 2,990 円）であった．高柳 1991，109 頁．

[53] 石井 1942，461 頁．なお後掲註 61 も参照．

[54] 中田書簡（1934 年 12 月 21 日付），及び同書簡での示唆をも受けての金田による「紹介」（金田 1935）145 頁．

教授になったばかりの石井は，当時まだ東京帝大への内地留学というかたちで在京していた兄弟子高柳[55]にまずは話を持ちかけ，二人して出版について中田に相談する．ところが中田の姿勢は消極的であり，そもそも「若輩」研究者が研究よりも史料集の校訂出版などに時間を割くべきではないなどと諭され，一旦は断念していたのである[56]．中田も彼らの意気込み自体は尊重しており，キャリアの浅い弟子たちを案じて自らが学術振興会への出版申請に向けて動いてもいた[57]．とはいえ，いわば教育的配慮から，彼らが史料集刊行ばかりにのめり込むのを警戒し，助力を申し出ると同時に「大規模の事業」としないよう注意を促していたのであった[58]．

他方で高柳は，石井に話を持ちかけられた当初から，まさに「大規模の事業」としての史料集刊行を企図していた．ゆえに，中田の消極的な姿勢に困惑し，年齢も近かった金田に頻繁に宛てた書簡で胸中を明かしていた．これに対して金田も事態を案じて高柳を励まし[59]，比較的早い段階から同書の紹介執筆を通じたサポートを念頭に置いていたようである．執筆に際して金田は，高柳の真意や希望を書簡で確認しているが，高柳は金田の厚意につき「光栄欣快」と謝した書簡で次のように述べていた．

> 日本の法制史学が中田先生のやうな立派な業績をもつてゐながら，経済史などに比して景気が悪いのは，といつて悪ければ勢力が微々としてゐるのは，資料の利用に不便が多いことに重大な原因があるのだと思ひます．（中略）それで我々は重要な資料を校訂してまとめて印刷して，容易に見られるやうにすることは，自分のためにもまた人のためにも，相当意義あることだと言ふことができやうと思ひます．尤も我々がそんな仕事に没頭することは，あまりほめたことではないので，まあ片手間に少し位やつたらよいと言ふことも考へねばなりませんが，併しやはり法制史の方のことは，法制史をやるものがやらねば，人に任せておいていゝものではないと思ひます．また外国の例について見れば，こんな仕事は政府なり学術団体が手をつけねばならぬのに，殆んど注意されないでゐるのも，法制史をやる者の責任がかなりあると思ひます．[60]

中田の懸念を理解しつつも，法制史が未だ学問分野として弱体であるとの危惧に基づき，打開のためにも自分たちの世代がまずは基本史料の刊行を足掛かりとして今後積極的に展開していかねばならないとする気概が溢れている[61]．

しかしながら中田もまた，高柳とほぼ並行して金田とは頻繁に書簡を交わし，高柳との行き違いについて，筆頭弟子である金田に釈明しその理解を求めていた[62]．一門における鎹的な役割を果たしていた金田に対する信頼[63]が窺えるが，同時に，自身の定年退官を目前にした中田が，東京，東北，九州各帝国大学助教授として巣立ったばかりの，30 歳前後で意気込み溢れる弟子たちの将来と，彼らが今後担う学界をどのように導くべきかを喫緊の課題として案じていた姿勢の表れでもあろう．ゆえに，金田が紹介の執筆に際して，高柳に対するのと同様中田にも意向を問い合わせたのに対して，石井と高柳の気概や尽力を損ねないよう配慮し，特に石井が出版に際して払った犠牲を具体的かつ詳細に記した上で，「事情を熟知せる小生としては何等かの機会に本書出版に関し石井君の隠れたる特別の功労に対し感謝の意を表し」たいと思っていたゆえ，この点を自分から直接聞いたというかたちではなく，「仄聞する処に依れ

---

[55] 「年譜」（高柳 1991）242 頁．

[56] 以上については，高柳書簡（1933 年 7 月 16 日付），同（1933 年 8 月 21 日付）による．

[57] 中田書簡（1933 年 5 月 10 日付），同（前掲註 54）．高柳の 7 月 16 日付書簡（前註）には，そもそもかかる「若輩」が補助金をもらうことについても中田が「極めて厳格に考へて」いるとある．

[58] 中田書簡（1933 年 5 月 10 日付/前註）．

[59] 高柳書簡（1933 年 8 月 21 日付/前掲註 56）．

[60] 高柳書簡（1934 年 12 月 21 日付）．しかしかかる考えにつき，中田には「殆んど同情していただくことができず，形式上あの集成の出版はあれだけのことゝして終ることゝなってゐます」とも打ち明け，重ねて金田の理解を求めていた．後掲註 72 も参照．

[61] 『東京日日新聞』記事（前掲註 52）では，「徳川時代は文学方面は多く出版されてゐる」にもかかわらず「法律の方面は今まで看過されて」きたとし，「徳川時代の法令全集の出版」は「わが国法令史の全貌を知るために必要なものであります」とも述べている．石井もまた御触書集成刊行後に中田を介して依頼された帝国学士院での報告において「法制史料の出版を企てるにあたって，まず法令集より着手することは，自然であると考える」（前掲註 53）と述べていたように，本格的かつ継続的な史料集刊行事業を企図していた．

[62] 中田書簡（前掲註 57）．その 2 ヶ月後，高柳は上京して石井とともに出版準備に着手するが，金田も同時期に上京予定だったにもかかわらずそれが叶わず残念とある．同（1933 年 7 月 15 日付）．

[63] 金田もまた，九州帝大赴任直後の不安定な身分であった折に中田や高柳からの鼓舞激励を受けていたことにつき，前掲註 6 の諸文献参照．

ばとか伝聞する処に依ればとか云ふ書出しの下」に「特筆」して欲しいと書き送っていたのである[64]．のみならず「紹介文」[65]では自ら，この史料集が「幕府の政治財政」のみならず「民間の風俗慣習経済文芸等普く社会現象の各方面に亙り，国民生活の諸相に及」び，ゆえに「経済史，社会史及び文化史の研究に対しても貴重なる資料」である，すなわちこの刊行が法制史学に留まらず「我史学界の為に誠に同慶に堪へざる」と幅広い分野に跨る重要性を有することを強調し，校訂経験のない「若輩」による出版への信頼性や訴求力を高めるべく助力していた．

かかる師と兄弟弟子それぞれの意を丁寧に汲み取った金田は，「本書刊行が機縁となり，必ずや近き将来続々と，法制史料の出版が行はれるに違ひないと考へる時，我々の不満は全く雲散霧消，無上の歓喜を感ずる」[66]「美事なる第一期の成果」[67]などと，高柳らの意気込みを後押しし些か大仰とも思われる賛辞を随所に散りばめて，これに忠実に応えている[68]．

ところが出版後，同書には直ちに『大阪市史』の編纂執筆経験も有する経済史の重鎮幸田成友(1873-1954)から反応が寄せられた．幸田は同書刊行を「慶賀に堪へざる」としながらも，敢えて「徒らに賞賛の辞を陳べることを廃し」，むしろ「互いに手を携へて向学の一路を辿らんと欲する」意からの疑問を提示する[69]．しかし石井と高柳はこれに対して激しく反発し，石井は高柳と相談の上即座に，これを「果して厳正なる学者的態度を以て書かれたものであるか否か，我々の甚だ疑問とする体のもの」と断ずるきわめて攻撃的な反駁文を公表した[70]．過剰とすら思える彼らの反応[71]の背景には，以上のように，中田から賛同を得られていないとの意識に基づく不安，それと表裏一体をなすところの中田による学問的庇護からの自立に付随する葛藤，さらには，幸田はもとより，黒正巌（1895-1949）を始めとする多くの門下を抱え，『近世社会経済叢書』『経済史研究』の刊行や日本経済史研究所の設立等，当時活発な活動を見せていた本庄栄治郎（1888-1973）ら経済史への強い対抗意識[72]の交錯があったのである．その後幸田からの批判にむしろ後押しされるかのように，高柳と石井はほぼ年１巻のペースで御触書集成全５巻の刊行を進めてゆくが，中田の次世代としてとりわけ近世法制史の基盤を築き上げ，今日に至るまで大きな学問的影響力を持つ金田，高柳，石井らの出発点が，象徴的に立ち現れている事例といえよう．

かかる紆余曲折を孕み金田の手元に届いたはずの『御触書寛保集成』は，九大の金田文庫には見出せなかったが，後日別途発見された（次述）．

5. 他大学に納入された旧蔵書

九州大学において金田文庫として確認・集約したものは，まとまった分量であるとはいえ，生前に存在した蔵書・資料の一部に過ぎず[73]，それ以外は不明であった．ところが 2017 年に寄贈を受けた個人資料の中に，偶然にもその詳細について具体的に示す書

---

[64] 中田書簡（前掲註 54）．

[65] 『御触書集成』宝暦～天保各初版本末尾の「「御触書集成」刊行目録」中に，「中田薫博士推奨」として掲載．1958 年以降のリプリント版には収録されていない．なお金田 1938 には「第一の巻発行当初発表，以下の各冊末尾に添付」とあるが，寛保集成への掲載は管見の限り未確認．

[66] 金田 1935，140 頁．

[67] 金田 1935，145 頁．

[68] 高柳はもとより石井も 1935 年 2 月 14 日付金田宛の書簡で，金田の紹介に対し「精緻なる御紹介」「過分なる御褒詞」と謝意を表している．

[69] 幸田 1935a，310 頁．

[70] 石井 1935a，同 1935b（引用は石井 1935a，123 頁）．高柳もまた，幸田書評が公表された直後の 1935 年 1 月 29 日付金田宛の書簡において，「あんな風に当り散らされてばかりすまされない」ゆえ「石井君と協議して」「駁文」を載せることにした旨報告し，また同書評について「何か敵意なり反感を示すものが感じられる」「実のところ幸田成友氏に対しては尊敬心がなくなりました」とまで記している．

[71] 史料集校訂のベテランであった幸田の指摘には強ち不当とは言えないものも多く含まれ，現に彼が指摘した目録や索引の不備等については，後に彼ら自身が補完している．また，研究補助について「校訂出版も結構であるが，それより更に一歩を進め，校訂した古書そのものについての研究を奨励すべきではないか」（幸田 a，315 頁）と，当初の中田の姿勢とも通ずる批判をしたことも，彼らをさらに刺激した一因であろうか．

[72] 『御触書集成』とちょうど同時期の 1933-5 年にかけての，幸田の推薦により本庄が編纂主任を務めた『明治大正大阪市史』（第六巻『法令篇』は本庄の担当）の刊行も，前述の高柳書簡（前掲註 60）が示す認識の一因をなしていたと思われる．中田の紹介文（前掲註 65）も，かかる学界状況に対する高柳・石井らの意識を念頭に置いたものであろう．金田もまた「日誌」（和仁・梶嶋 2018）410 頁で本庄の『日本経済社会史』を「ジャーナリスティック」と評し，一体に日本経済史の「現在のもの」を「少々甘い気がする」と，対抗意識を露わにしていた．なお追加寄贈された金田文庫の個人資料には，本庄から寄贈された 1933 年刊行の『経済史研究』が 3 冊ほど含まれている．

[73] 金田久仁彦氏は，2017 年初頭に初めてお目にかかった時点では，むしろ九大以外に蔵書を売却された旨言及されていた．また金田の生前にしばしば自宅を訪れていたという秀村名誉教授も，集約した蔵書をご覧になった際，これらは一部に過ぎず，多くは弟子の服藤弘司氏が譲り受けているのではないかと指摘されていた．

簡類が発見されたのである．

まずは判明した限りでの納入先および金額を示しておこう[74]．

九州大学法学部	91,500 円
福岡学芸大学（現・福岡教育大学）	8,960 円
八幡大学（現・九州国際大学）	7,500 円[75]
大分大学	6,300 円
大阪大学	2,000 円
巌南堂	52,000 円

これらの蔵書売却はすべて，ご遺族一家が夫人の出身地である東京に居を移した 1951 年に故つね夫人からの依頼に基づき，西洋法制史担当教授であった吉田道也（1912-1992），弟子の服藤弘司（1921-2005 当時大学院特別研究生），庄野英三（法学部助手/事務主任）[76]，高木孝詮（1905-1981 当時八幡大学法学部長）らの協力によって行われた．うち九大法学部が購入した文庫の分が金額からも全体の過半に上ると推定されるが，重複等を理由に購入を見合わせた分が上記４大学に，さらに残余が巌南堂に売却されたようである[77]．

福岡学芸大学購入分については売却候補リスト（写真は本稿末尾に掲載）[78]が残されていたため，福岡教育大学学術情報センター図書館にて確認を行った（担当：山根）．八幡大学購入分についての記録はなかったものの，九州国際大学図書館で調べたところ，新たに蔵書の存在が判明した（担当：和仁，梶嶋）[79]．従って本稿では両大学で判明した金田蔵書リストをも掲げておくことで，生前の蔵書のヴァーチャルな補完を試みるとともに，それぞれの特徴について若干の指摘をしておきたい．

福岡学芸大学への売却は，九大への売却から凡そ半年後の 1951 年９月 18 日に，城義臣（1904-1976 当時参議院議員（熊本選挙区））[80]を介して行われていた[81]．金田と同大学との直接的な関係は管見の限り不明であるが，1949 年に創設されて間もない近隣の新制大学ゆえ蔵書蒐集に積極的と思われ売却先の候補として上がったのだろうか．実際に購入した書籍は九大には既に所蔵されていた当時の法学政治学の基本文献が殆どで，提示されたリストの半数程度に相当するが[82]，学生時代に講義を受けた穂積重遠（1883-1951 民法）や，九州帝大同僚であった大澤，今中，金田とともに後述の九州法学校にも関わった舟橋諄一（1900-1996 民法），金田の学位論文審査委員も務めた山中康雄（1908-1998 同）らからの著者献呈本も多数含まれている．【別表２】

対して八幡大学とは金田は，前身の九州法学校から深く関わっていた．1930 年に九州帝大教授の大澤章を校長として小倉に創立され，北九州地区初の人文社会科学系高等教育機関であった同校[83]には，金田も 1934 年より学監として関与し，商法総則の講義などを行っていた[84]．1940 年にはこれを継承した九州専門学校が戸畑に設置されるが，初代校長となった九州帝大同僚の宇賀田順三（1898-1979 行政法，後に八幡大学学長）の右腕として設置申請段階から支え，第二部長（夜間）を務めている[85]．加えて自身が講義を担当したのはもとより，九大で育んだ後進

---

[74] 前述台帳の他，清水邦夫（福岡学芸大学事務局長）から城義臣（後述）宛の書簡（1951 年９月 18 日付），庄野英三（後掲註 76）から金田つね子氏宛葉書（1951 年９月 19 日付）．

[75] 高木孝詮から金田つね子氏宛の書簡（1951 年７月 29 日付）によるが，九州国際大学図書館所蔵の購入台帳に基づいて算出すると 7690 円となる．高木については後述．

[76] 庄野とは金田の生前から深い交流があったことにつき，秀村 2018b，352 頁．九州大学法学部教授会議事録および『貴重書目録リスト　法制史資料　古文書・県郡誌（九州大学法学部）』によれば，庄野は 1960 年代後半に法学部図書係長，1969 年から退職する 1973 年まで日本法制史の講師を務め，法制史料を含む古文書調査を実施している．

[77] 金田つね子氏宛の庄野書簡（前掲註 74），及び同吉田書簡（1951 年９月 18 日付）．

[78] 清水書簡（前掲註 74）に同封されていたもの，全６葉．

[79] 福岡学芸大への売却候補リスト（前註）からは，購入を見合わせた書籍についても判明するが，先に売却を打診したと思われる，後述の八幡大学購入分との重複はない．大分大学についてもリストの未購入分を手掛かりに調べたものの，今のところ金田蔵書と認定し得るものは確認出来ていない（担当：和仁，梶嶋）．なお大阪大学分は未調査．

[80] 清水書簡（前掲註 74）．城は金田一家とは戦前近所で親しく，一家が疎開地を検討する際も，自身の郷里である隈府町（現・熊本県菊池市）行きを世話したり，金田没後もご子息の媒酌人を引き受けたりもしていた（金田久仁彦氏談）．金田が非常勤として羅馬法講義を担当したことのある法政大学の助手・講師や九州日報編纂局員を務めていたことも，かかる関係に影響していたか．

[81] なお福岡教育大学学術情報センター図書館が所蔵する図書原簿には，1951 年９月 26 日に服藤より 49 冊購入したとある．

[82] 前掲註 79 参照．

[83] 松隈 1980，4-5 頁，及び九州国際大学同窓会 2003，12-3 頁．

[84] 松隈 1980，8-10 頁．なお「日誌」（和仁・梶嶋 2018）414 頁によれば，そもそも九州帝大着任間もない時期に，商法担当の助教授に就任し，後に法制史に転ずるという話もあったようである．

[85] 松隈 1980，20 頁．金田文庫にも関連する辞令類が収められている．

や教え子たちを多く教師として送り出してもいたが，その一人であった高木が蔵書売却に尽力したのは当然の成り行きであったと思われる[86].

調査で金田の蔵書と判明したものは 14 冊と多くはないものの[87]，編者献呈の初版本『御触書集成』全 5 冊が，きわめて良好な状態で見つかった（写真 7）．既に所蔵があり重複を避けた九大が購入しなかったために，八幡大学に収められたものと思われるが，金田による多数の栞[88]が挟み込まれており，先述のように法制史学史上も重要なものである[89].

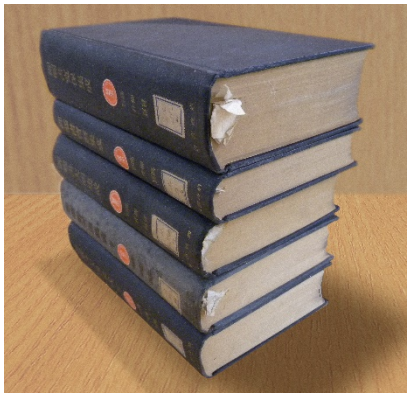


写真 7
『御触書集成』（九州国際大学図書館所蔵）

その他，金田が石井に提供した「嚴牆集」（文化史所蔵写本）を含む『近世法制史料叢書』（全 3 冊，栞多数，九大金田文庫には第一のみ所蔵）の編者献呈初版本，九州帝大初の法学博士でもあった大澤の学位論文『国際法秩序論』（著者献呈本）もある．【別表３】

なおこれらの蔵書については現在，九州国際大学図書館「金田文庫」とされている（2021 年 6 月 8 日に蔵書集約及び表記書換済み）.

おわりに

2017 年 10 月 9 日，金田の教え子である秀村選三名誉教授とご長男金田久仁彦氏が，旧箱崎キャンパスの文系合同図書室を来訪された．文庫の設置が決定し書庫の一角に漸く集約された故金田博士の旧蔵書との，実に 70 年ぶりの邂逅を果たすためであった．ご覧になるなり「ああ，先生・・・」と，並べられた書列を慈しむように触れ，そのまま跪かれた秀村名誉教授，書庫を立ち去る際，図書室の扉に向かって「さよなら！」と，まるでお父上に別れを告げられるかのように力強く手を挙げて呼びかけられたご長男，そのお姿は，学者にとって蔵書とは単なる「モノ」ではなく所有者の学問的人格そのものであることを何より強烈に示す光景であった.

その後翌年 2018 年 2 月 19 日にも忘れ難い出来事があった．文庫化を喜んで下さり終始温かなご助言を下さっていた秀村名誉教授がこの時だけ，金田が図書館長を務めた旧図書館（保存図書館）に和仁を呼び出し，文庫化について「あなたは一体金田先生に恥をかかせる気ですか」と，きわめて厳しい口調で叱責されたのである．もとより文庫化への道程が容易ならざるものであったことは深く理解されながらも，あくまでも残存した限りでの，量的には決して多いとは言えない部分的な蔵書が一旦「文庫」となってしまうことで，却ってそれが蔵書のすべてとの誤解を生み出し，ひいては学問自体が貧弱であったかのような誤った印象を後世に植え付けてしまうのではないか，という懸念からのことであった．蔵書を恩師の学問の体現と捉えた上で，70 年近くを経てもなおかくまで思い入れられる姿勢に，真の学恩が本来的に有する不変の価値を思い知ったと同時に，文庫化することの責任や重みを改めて痛感させられた.

---

[86] 高木は九州帝大法文学部において，金田と同じ茨城県出身で当時京都帝国大学より兼任教授として出講していた宮本英脩（1882-1944）の下で刑法を専攻すると同時に，金田が指導していた法律扶助部の責任者も務めていた．卒業後には同大国文科に再入学し，江戸期の町人文学研究に従事した後に，金田の推薦によって九州専門学校で教鞭を執ることとなった．松隈 1980，203 頁．八幡専門学校の時代には，文学や古文を教えたこともあったようである．九州国際大学同窓会 2003，162-3 頁．なお高木書簡（前掲註 75）には，服藤からの依頼で同大学の図書係に調査を命じ，大学にない書籍を購入することにしたとある.

[87] なお松隈 1980，47-8 頁によれば，同校が 1950 年に八幡専門学校から八幡大学へと昇格するに際し，その前年に大規模な図書整備運動を実施していた．他方で八幡製鉄所図書館からの約 1 万冊の永久貸与の話もあり，図書館書庫の収容能力も問題となっていた．同，70 頁．蔵書売却が大学昇格のための図書整備運動が蔵書売却の時期と重なっていたか，または新書庫が完成した 1951 年 8 月末以降であったとすれば，さらに多くの蔵書が九州国際大学に残された可能性もあったであろうか.

[88] 栞として用いられていた紙片の中には「九州帝大法文学部昭和 3 年 10 月 31 日憲法（上杉講師）受験票」もあった．九州帝国大学法文学部教授会議事録によれば，金田自身もかつて東京帝大で講義を受けた上杉は，法文学部の内訌事件の際の応援講師として同年 7 月来福し，九州帝大の講義を担当した．学生たちに好評を博していた様子について，「上杉博士詩を揮毫　法文学部学生の為めに」「慰労会では博士独特の瞑想勉強法を」『九州帝国大学新聞』一三号（1928 年 7 月 17 日掲載）を参照．なおこの時既に体調を崩しており，翌 8 月には岐阜県での講演中に卒倒して東京帝国大学附属病院に入院，一旦退院するものの翌 4 年 4 月に病没している．今野 2018，303 頁以下.

[89] 使用頻度の高い九大に所蔵されていたら，恐らく栞は保持されず，状態も損なわれていたかもしれない.

書籍や資料は時として，単なる「モノ」として捉えられる．古い蔵書・資料や重複本の廃棄という痛恨事がしばしば生じるのは，かかる認識が根底にあるからでもあろう．しかし一旦ある所有者の手に渡った途端，そこには当該書籍を選択した所有者の意志なり世界観，学問観が反映され，その書籍なり資料なりが本来持つ意義に加えて新たな価値をも持つこととなる[90]．加えて所有者の書き込み等があれば，これはまさに新たな「資料」そのものである．文庫化によるかかる書籍や資料の集積は単なる「本の寄せ集め」などではなく，所有者が生きていた時代の学問世界及びそれを取り巻く時代環境を可視化し，その立体的な再構築をも実現する．本格的な展開期を迎えつつあった法制史学を軸とした昭和初期における文科系学問の実相を力強く語る金田文庫は，まさにその好個の一例といえよう．

※本稿は，早稲田大学特定課題研究助成費(課題番号：2019C-022，2020C-028)，JSPS 科研費 21K01107 による研究成果の一部である．文献等の引用に際し，旧字・異体字は適宜通用字に改めた．なお調査に際して，福岡教育大学学術情報センター図書館，ならびに九州国際大学図書館からは格別のご高配をたまわった．この場を借りて篤くお礼申し上げたい．

本稿執筆中の 2021 年 4 月 15 日，秀村選三名誉教授が逝去された．ここに至るまでの一連の過程は，秀村名誉教授による数々のご貢献なくしては成し得なかったものである．著者一同，言葉に尽くせぬ満腔の感謝の意をもってこの小稿を捧げるとともに，衷心より秀村先生のご冥福をお祈り申し上げます．

秀村選三名誉教授と金田文庫(2017 年 10 月 9 日)

参考文献

［1］相部久美子・梶原瑠衣・古賀京子・星子奈美・山根泰志「九州大学附属図書館における蔵書印画像の収集と公開について」『九州大学附属図書館研究開発室年報』2016/2017，2017
http://hdl.handle.net/2324/1812929
［2］青田寿美「蔵書印の愉しみ」国文学研究資料館通常展示特設コーナー展示リーフレット，2014.6
http://id.nii.ac.jp/1283/00001804/
［3］石井良助「幸田博士の批評に答ふ」『社会経済史学』4 巻 11 号，1935.2：石井 1935a
［4］石井良助「御触書集成に就て」『国家学会雑誌』49 巻 5 号，1935.5：石井 1935b
［5］石井良助「御触書編纂の沿革」（高柳・石井 1941 所収）
［6］石井良助「御触書集成について」『帝国学士院記事』1 巻 3 号，1942/引用は石井『民法典の編纂』(創文社，1979)による
［7］植田信廣「部門の概要・法制資料部門」『九州大学附属図書館付設記録資料館　ニューズレター』Vol.1，2007

[90] 山根 2009，29 頁の指摘も参照．

［8］江川和子「鷗外文庫書入本データベースの公開について」『文学』8 巻 2 号，2007
［9］大阪市役所編纂『明治大正大阪市史　第八巻』日本評論社，1935.5
［10］小川知幸「中間報告　ミュンスターベルク文庫再構成の試み」『東北大学附属図書館調査研究室年報』5 号，2018：小川 2018a
［11］小川知幸「東北帝国大学附属図書館の蔵書形成―特殊文庫の成立をめぐって―」『図書館文化史研究』35 号，2018：小川 2018b
［12］梶嶋政司「草創期九州文化史研究所の史料収集活動―『採訪日記』の紹介―」『九州文化史研究所紀要』49 号，2006
［13］梶嶋政司「古野家文書の来歴と『古野家寄贈図書目録』」『九州大学附属図書館付設記録資料館　ニューズレター』Vol.15，2021
［14］梶原瑠衣「1965 年の九州大学附属図書館中央図書館利用案内」『九州大学附属図書館研究開発室年報』2019/2020，2020　http://hdl.handle.net/2324/4061019
［15］金田久仁彦「【手記】父の生きた時代を追って―ささやかなルーツと世相の一端―」（金田 2018 所収）
［16］金田平一郎「紹介・高柳真三 石井良助共編「御触書寛保集成」」『国家学会雑誌』49 巻 2 号，1935.2
［17］金田平一郎「新刊批評・高柳真三 石井良助共編「御触書集成」」『法律時報』10 巻 4 号，1938
［18］金田平一郎（和仁かや監修）『近世民事責任法の研究』九州大学出版会，2018
［19］楠本美智子『近世の地方金融と社会構造』九州大学出版会，1999
［20］九州国際大学同窓会『九州国際大学同窓会　橘会五十年史』2003
［21］九州大学附属図書館『知をつむぐ―九州大学の書物たち―』2019　http://hdl.handle.net/2324/2344444
［22］九州大学法学部百年史編集委員会「九州大学法学部・法科大学院の歩み-1924 年（法文学部創設）から 2012 年まで-」『法政研究』81 巻 4 号，2015
［23］幸田成友「御触書寛保集成」『社会経済史学』4 巻 10 号，1935.1/引用は『幸田成友著作集　第 7 巻』（中央公論社，1972）による：幸田 1935a
［24］幸田成友「石井学士に答ふ」『社会経済史学』4 巻 12 号，1935.3：幸田 1935b
［25］小泉吉永（石川松太郎監修）『往来物解題辞典　解題編』大空社，2001
［26］古賀康士「九州大学経済学部古文書について―その来歴と編成―」『九州大学附属図書館研究開発室年報 2016/2017』2017　http://hdl.handle.net/2324/1901280
［27］今野元『吉野作造と上杉慎吉―日独戦争から大正デモクラシーへ―』名古屋大学出版会，2018
［28］桜田勝徳「年譜」『桜田勝徳著作集　7』名著出版，1982
［29］高柳真三・石井良助編『御触書寛保集成』岩波書店，1934
［30］高柳真三・石井良助編『御触書宝暦集成』岩波書店，1935
［31］高柳真三・石井良助編『御触書天明集成』岩波書店，1936
［32］高柳真三・石井良助編『御触書天保集成上』岩波書店，1937
［33］高柳真三・石井良助編『御触書天保集成下』岩波書店，1941
［34］高柳洋吉『高柳真三遺文集』私家版，1991
［35］田村隆「鷲見文庫点描」『九州大学附属図書館研究開発室年報』2008/2009，2009
http://hdl.handle.net/2324/15442
［36］出口智之「鷗外文庫について」『平成 24 年度東京大学附属図書館特別展示　鷗外の書斎から―生誕 150 年記念　森鷗外旧蔵書展―』東京大学附属図書館，2012
［37］徳元美智子「中央図書館所蔵内田文庫」『九州大学附属図書館研究開発室年報』2011/2012，2012
http://hdl.handle.net/2324/24954
［38］中田薫『徳川時代の文学に見えたる私法』岩波文庫，1984
［39］中野泰「解題 ： 桜田勝徳調査研究資料アーカイブ」同『フィールドノート・アーカイブズの基礎的研究』（科学研究費助成事業 研究成果報告書，2016
［40］野間吉夫「早川さんのこと」宮本常一・宮田登編『早川孝太郎全集第三巻　芸能と口承文芸』月報 3，未来社，1973
［41］服藤弘司「債権法上における証書の機能」同『幕藩制国家の法と権力Ⅳ 刑事法と民事法』創文社，1983/初出は『金沢法学』4 巻 2 号，5 巻 2 号，6 巻 1 号，1958-60
［42］　秀村選三「若い日の九州文化史研究所の思い出」『九州文化史研究所紀要』61 号，2018：秀村 2018a
［43］秀村選三「【寄稿】金田先生の思い出」（金田 2018 所収）：秀村 2018b
［44］松隈清『八幡大学史』八幡大学，1980
［45］宮本常一「早川孝太郎氏を悼む」『民俗学研究』21 巻 3 号，1957
［46］宮本又次『私の研究遍歴 ： 経済史・経営史・郷土史』大原新生社，1978
［47］森田俊雄「大原社会問題研究所資料の研究（２）」『大阪城南女子短期大学研究紀要』50，2016
［48］　柳生四郎「鷗外文庫」『UP』8，1973
［49］八鍬友広「往来物と書式文例集―「文書社会」のためのツール―」若尾政希編『シリーズ〈本の文化史〉3　書籍文化とその基底』平凡社，2015

［50］山根泰志「忘れられた文庫たち―中央図書館所蔵幕末明治期漢学者旧蔵書群―」『九州大学附属図書館研究開発室年報』2008/2009，2009
http://hdl.handle.net/2324/15443
［51］山根泰志「旧制福岡高等学校蔵書」『九州大学附属図書館研究開発室年報』2010/2011，2011
http://hdl.handle.net/2324/20108
［52］和仁かや「金田平一郎と九州帝国大学」『法政研究』83 巻 3 号，2016
［53］和仁かや・梶嶋政司・中川晃一『金田平一郎と九州大学附属図書館』九州大学附属図書館，2018
http://hdl.handle.net/2324/1913973
［54］和仁かや「解題『近世民事責任法の研究』」（金田 2018 所収）
［55］和仁かや・梶嶋政司「金田平一郎『昭和四年　日誌』」『法政研究』85 巻 2 号，2018
［56］和仁かや「トピック　さよなら箱崎キャンパス企画展示　金田平一郎と九州大学附属図書館（展示報告）」『九州大学附属図書館付設記録資料館　ニューズレター』Vol.13，2019

本著作の著作権は著者に帰属します．注があるものを除いて，本著作の内容物はクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際（CC BY-NC-ND 4.0）ライセンスの下に提供されています．

https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja

【別表1-1】九州大学附属図書館　金田文庫洋装本リスト（中央図書館所蔵）

No.	請求記号	標題	出版年	数量	蔵書印	備考
1	Aj 00/H/19	法政大學五十周年記念講演集 / 平貞藏編	1928	1	あり	
2	Aj 00/K/44	十周年記念哲學史學文學論文集 / 九州帝國大學法文學部［編］	1937	1		
3	Aj 00/K/45	東洋史集説 ： 加藤博士還暦記念 / 加藤博士還暦記念論文集刊行會編	1941	1		
4	Aj 00/M/20	法律における思想と論理 ： 牧野先生還暦祝賀論文集	1938	1		「昭和十三年四月十日　牧野英一先生より寄贈　金田平一郎」
5	Aj 05/R/38	日本六法全書 / 清水書店編輯部編	1923	1		
6	Aj 07/R/2	六法全書. -- 改版4刷；昭和8年3月	1933	1	あり	金田平一郎署名あり
7	Aj 07/R/2	六法全書. -- 改版6刷；昭和10年3月	1935	1	あり	金田平一郎署名あり
8	Aj 10/F/2	藤田東湖傳 / 高須芳次郎著	1941	1		
9	Aj 10/H/1	贈従五位広瀬旭荘先生小伝 / 高取悦堂述	1924	1		「昭和九年三月十一日日田広瀬家訪問に際し広瀬正雄氏より寄贈　三月十九日旅舎和哥の家にて記るす　金田」
10	Aj 10/K/4	河村秀根 / 阿部秋生著	1942	1		
11	Aj 10/K/5	古賀穀堂先生小傳 / 西村謙三編	1935	1		「佐賀鍋島家別邸より寄贈 十二年十月廿二日金田」
12	Aj 10/N/2	現代人の日蓮聖人傳 / 星野武男著	1935	1		
13	Aj 10/N/3	大國聖日蓮上人 / 田中智學著	1929	1		
14	Aj 10/O/1	大蔵永常 / 早川孝太郎著	1943	1		著者自筆「謹呈」栞あり
15	Aj 10/S/3	島津久光公 / 高島彌之助著	1937	1		
16	Aj 10/T/3	谷将軍 / 山崎正董［述］	1933	1		
17	Aj 10/Y/2	吉田磯吉翁傳 ： 全 / 吉田磯吉翁傳記刊行會編	1941	1		
18	Aj 31.1/M/1	水戸學辭典 / 高須芳次郎編	1942	1		
19	Bj 00/S/19	ナチス・獨逸法入門 / エリッヒ・シネラア著 ； 北村久直譯編	1941	1		
20	Bj 20/K/4	法律哲學 / イマヌエル・カント［著］； 恒藤恭，船田享二譯	1933	1		
21	Bj 70/M/10	近世法學通論 / 三潴信三著. -- 改訂版.	1941	1	あり	
22	Dj 10/S/10	新國家論 / アントン・メンガー著 ； 河村又介譯	1935	1		訳者献呈本「昭和十二年六月初訳者より寄贈 金田」
23	Dj 40/U/12	帝國憲法述義 / 上杉愼吉著. -- 增訂改版(13版)	1918	1	あり	
24	Ej 70/U/1	立憲自治の本義 ： 選擧肅正の考え方 / 宇賀田順三著	1937	1		著者献呈本
25	Ej 80/K/19	日本税制改革史 / 勝正憲著	1938	1		現物なし
26	Ej 82/I/3	大東亞建設法の理念と構造 / 岩田新著	1942	1		著者献呈本、献辞あり
27	Gj 37/T/6	勞働紹介 / 豊原又男著	1920	1	あり	
28	Gj 63/H/12	農と農村文化 / 早川孝太郎著	1941	1		
29	Gj 65/M/6-50	三井銀行五十年史 -- 三井銀行	1926	1	あり	「松尾或一氏より寄贈 昭和拾参年六月三日 金田」
30	Hj 70/A/1	根本佛教 / 姉崎正治著	1910	1	あり	
31	Hj 70/K/1	神道文化史 / 河野省三著	1940	1		
32	Hj 70/M/3	神道史 / 宮地直一編	1943	1		
33	Hj 70/N/1	日本宋學史 / 西村天囚著	1909	1		
34	Hj 70/O/3	神祇制度大要 / 岡田包義著	1942	1		著者献呈
35	Hj 70/T/3	神道哲學 / 田中伊藤次著	1940	1		「葉多野」
36	Jj 20/N/9	汎ツラニズムと經濟ブロック / 野副重次著	1933	1		著者献呈本，献辞あり
37	Jj 20/S/13	漁村民俗誌 / 櫻田勝徳著	1934	1		
38	Jj 50/I/1	政治政策學 / 今中次麿著	1930	1	あり	著者献呈本，献辞あり
39	Jj 75/I/3	政治學説史 / 今中次麿著	1931	1		献辞あり
40	Kj 00/I/11	近世法制史料叢書 / 石井良助編　第一	1938	1	あり	昭和36年追加寄贈分「編者石井さんより寄贈 昭和十三年初夏 金田」
41	Kj 00/K/6	令集解 / 國書刊行會［編］	1924	1	あり	
42	Kj 00/N/2	法制史論集 ： 中田先生還暦祝賀 / 石井良助編	1937	1		
43	Kj 00/Y/1	制度考 / 山田熊三郎編述	1936	1		熊本・吉野村，昭和12年10月22～25日熊本で購入とあり
44	Kj 10/I/10	日本法制史要 / 石井良助著	1949	1	あり	
45	Kj 10/I/9	日本法制史概説 / 石井良助著	1948	1		
46	Kj 10/K/24	日本法制史 / 金澤理康著	1942	1	あり	
47	Kj 10/M/21	法制史の研究 / 三浦周行著 ； -- ［改版］上	1943	1	あり	
48	Kj 10/M/23	日本法制史概論 / 牧健二著. -- 完成版	1948	1	あり	著者献呈本，献辞あり
49	Kj 10/M/24	日本法制史論 / 牧健二［著］；上巻	1929	1	あり	
50	Kj 10/N/16	庄園の研究 / 中田薫著	1943	1		献辞あり
51	Kj 10/T/15	日本法制史講義案 / 瀧川政次郎述		1		
52	Kj 12/C/4	八幡大菩薩愚童訓 ： 筑紫本 / 筑紫頼定編纂	1942	1	あり	著者献呈本，献辞あり
53	Kj 12/H/50	別府三百年史 / 堀博忠著 ； 序ノ前篇	1972	1		
54	Kj 12/H/54	ハナシコトバ十七条憲法 / 林竹次郎著	1935	1		著者献呈本「昭和十一年九月中旬林竹次郎先生より寄贈」
55	Kj 12/H/56	博多築港記念大博覧會誌	1937	1		栞（受験票）あり
56	Kj 12/I/17A	中世武家不動産訴訟法の研究 / 石井良助著	1938	1		著者献呈本，献辞あり
57	Kj 12/I/42	水戸名家遺墨集 / 井田書店編輯部編	1942	1		
58	Kj 12/K/58	野の人町の人 / 黒羽兵治郎［著］	1944	1	あり	
59	Kj 12/K/59	近世日本農業の構造 / 古島敏雄著	1943	1	あり	
60	Kj 12/K/60	神国日向 / 国府犀東［種徳］，大佛次郎［ほか］著	1934	1		
61	Kj 12/K/62	琉球の研究 / 加藤三吾著 ； 早川孝太郎校訂	1941	1		「謹呈」栞あり
62	Kj 12/N/44	徳川時代の文學と私法 / 中田薫［著］	1923	1	あり	「大正拾三年五月　金田平一郎」，その他書き込みあり
63	Kj 12/N/46	シマの生活誌 ： 沖永良部島採訪記 / 野間吉夫著	1942	1		著者献呈本，献辞あり
64	Kj 12/O/51	日本文庫史 / 小野則秋著	1942	1		
65	Kj 12/S/63	藩精神 / サンデー毎日編輯局編	1942	1		
66	Kj 12/S/64	聖徳太子の憲法 / 佐伯定胤［著］	1943	1		
67	Kj 12/S/65	海事叢談 / 住田正一著	1930	1	あり	献呈本
68	Kj 13/K/14	江戸時代之音楽 / 田辺尚雄著	1928	1	あり	
69	Kj 13/K/14	江戸時代之川柳 ： 一名川柳史 / 井上劍花坊著	1928	1	あり	
70	Kj 13/K/14	江戸時代之角力 ： 一名日本角力史 / 三木愛花著	1928	1	あり	
71	Kj 13/N/4	江戸名所圖會 / 松涛軒長秋編輯 ； 長谷川雪旦図画　第1～4冊	1928	4	あり	
72	Kj 13/N/4	東海道名所図会 /［秋里舜福編 ； 竹原春朝斎等画］上巻	1928	1	あり	

73	Kj 13/N/4	東海道名所図会　下巻 / ［秋里舜福編 ; 竹原春朝斎等画］. 東都歳時記 / ［斎藤幸成編 ; 長谷川雪旦, 長谷川雪提画］	1928	1	あり	
74	Kj 13/N/5	日本随筆大成 / 日本随筆大成編輯部編 ; 第1期 巻1～12、第2期 巻1～12、別巻上下、第1期 巻1～13	1927	36		本人直筆のメモ貼付, 書き込みあり
75	Kj 15/F/1	福岡縣史資料 ; 第1輯～第10輯	1932	10	あり	蔵書印7～10輯のみ
76	Kj 15/H/1	博多商工會議所五十年史 / 博多商工會議所[編]	1940	1		贈呈スタンプあり
77	Kj 15/M/1	大聖寺絹業史 / 宮本謙吾著	1942	1		著者献呈本, 「昭和十八年一月前田侯爵家別邸宮本謙吾より寄贈」
78	Kj 15/O/1	南區志 / 大阪市南区役所編	1928	1		
79	Kj 15/O/2	大分縣警察史 / 大分縣警察部編纂	1943	1		
80	Kj 15/Y/1	有田陶業史 / 横尾謙著 ; 徳見知敬補	1919	1		「昭和九年三月廿六日有田町に遊べる際佐賀県立第一窯業試験場長大須賀氏（真蔵）より寄贈 金田平一郎」
81	Kj 18/A/32-A	日本家族制度と小作制度 / 有賀喜左衛門著	1943	1	あり	
82	Kj 18/G/109	新校羣書類従 / ［塙保己一編］; 川俣馨一編　第1～24巻	1927	24	あり	
83	Kj 18/I/35	救濟制度要義 / 井上友一著	1909	1		貼紙あり
84	Kj 18/I/36	本邦古代氏姓の研究 / 井上久米雄著	1929	1		現物なし
85	Kj 18/K/198A Kj 18/K/198B Kj 18/K/198C	近世藩法資料集成 / 京都帝國大學法學部日本法制史研究室編 ; 第2巻	1943	3	あり	Kj 18/K/198Aには蔵書印あり Kj 18/K/198Cは重複のため除却
86	Kj 18/K/238	職官考 / 栗田寛編 ; 白鳥清, 山岸徳平校訂 ; 上古篇	1944	1	あり	
87	Kj 18/M/103	福岡縣會議録　/　本川男熊編	1879	1	あり	
88	Kj 18/O/148	古類集 / 司法省調査部[編]; 1～4	1941	4	あり	「贈呈」付箋あり
89	Kj 18/T/93	紀行文集 : 全 / 柳田國男校訂	1930	1		現物なし
90	Kj 18/T/93	人情本傑作集 : 全 / 山崎麓校訂	1928	1	あり	
91	Kj 18/T/93	脚本傑作集 / 水谷不倒校訂	1929	1	あり	
92	Kj 18/T/93	西鶴全集 / 井原西鶴［著］; 藤村作校訂 ; -- 改訂版　前・後	1928-1930	2	あり	後編に蔵書印と書き込みあり
93	Kj 18/T/93	梅ごよみ : 全 ; 春告鳥 : 全 / 中山太郎校訂	1928	1	あり	
94	Kj 18/T/93	南總里見八犬傳 / ［曲亭馬琴著］; 笹川種郎校訂 ; 一・二・参	1930	3		二・参に蔵書印あり
95	Kj 18/T/93	南總里見八犬傳(4) : 全 ; 繪本西遊記 : 全 / 笹川種郎校訂	1930	1	あり	
96	Kj 18/T/93	名家漫筆集 : 全 / 長谷川天溪校訂　(帝國文庫 ; 第23篇)	1929	1	あり	
97	Kj 18/T/93	東海道中木曽街道膝栗毛 : 全 / ［十返舎一九著］; 三田村鳶魚校訂	1930	1		
98	Kj 18/T/93	仇討小説集 / 三田村鳶魚校訂	1929	1		
99	Kj 18/T/93	眞田三代記 ; 越後軍記 / 中村孝也校訂	1929	1	あり	
100	Kj 18/T/93	珍本全集 / 藤村作校訂 ; 前・後	1928-1930	2	あり	前編に蔵書印、後編に付箋のようなものあり
101	Kj 18/T/93	常山紀談, 全 : 附武将感状記 / ［湯淺常山著］; 中村孝也校訂	1929	1		
102	Kj 18/T/93	京傳傑作集 / ［山東京傳著］; 笹川種郎校訂	1928	1	あり	
103	Kj 18/T/93	種彦傑作集 / 柳亭種彦［著］; 山口剛校訂	1929	1		
104	Kj 18/T/93	近世説美少年録 / ［曲亭馬琴著］; 笹川種郎校訂	1928	1	あり	
105	Kj 18/T/93	馬琴傑作集 / ［滝沢馬琴著］; 山崎麓校訂	1929	1	あり	
106	Kj 18/T/93	其磧自笑傑作集 / ［江島其磧, 安藤自笑著］; 水谷不倒校訂	1929	1	あり	
107	Kj 18/T/93	近松世話浄瑠璃集 : 全 / ［近松門左衛門著］; 守随憲治校訂	1928	1	あり	
108	Kj 18/T/93	紀海音並木宗輔浄瑠璃集 / ［紀海音, 並木宗輔著］; 黒木勘蔵校訂	1929	1		
109	Kj 18/T/93	忠臣蔵浄瑠璃集 : 全 / 小澤愛圀校訂	1929	1	あり	
110	Kj 18/T/93	眞書太閤記 / ［栗原柳庵編］; 中村孝也校訂 ; 上・中・下巻	1928-1930	3	あり	
111	Kj 18/T/93	柳澤越後黒田加賀伊達秋田騒動實記 : 全 / 三田村鳶魚校訂	1928	1	あり	
112	Kj 18/T/93	大岡政談 : 全 / 尾佐竹猛校訂	1929	1		
113	Kj 18/Z/10	續羣書類従 / ［塙保己一編］; 第1輯上 - 第15輯下	1902	29		欠 : 第2輯下
114	Kj 18/Z/10	續羣書類従 / ［塙保己一編］; 第16輯上 - 第30輯上	1902	30		
115	Kj 18/Z/10	續羣書類従 / ［塙保己一編］; ［太田藤四郎補］; 第30輯下 - 補遺4	1902	9		欠 : 補遺3,4
116	Kj 18/Z/10	羣書類従 / ［塙保己一集］; 正續分類總目録	1929	1		
117	Kj 20/M/1	東亜法秩序序説 : 民族信仰を中心として / 増田福太郎著	1942	1		朱線あり, 「明石蔵書」
118	Kj 20/M/2	蒙古律例 / 興安總署調査科［編］	1934	1		現物なし
119	Kj 20/R/1	蒙古民族の慣習法 / 興安總署調査科［編］	1934	1	あり	「満洲国興安總署調査科長野副重次君より寄贈 昭和九年十月 金田」
120	Kj 24/C/1	經國大典 / 朝鮮總督府中樞院［編］	1934	1	あり	
121	Kj 24/C/2	續大典 / 朝鮮總督府中樞院［編］	1935	1		
122	Kj 24/C/3	大典續録及註解 / 朝鮮總督府中樞院［編］	1935	1		
123	Kj 30/F/2	羅馬元首政の起源と本質 / 船田享二著	1936	1		
124	Kj 30/F/3	羅馬法 / 船田享二著	1930	1		著者献呈本, 献辞あり
125	Kj 30/F/4	羅馬私法提要 / 船田享二著	1941	1		著者献呈本
126	Kj 30/F/5	私法 / 船田享二著 ; （羅馬法 / 船田享二著); 1～3巻	1943	3		1,3巻は現物なし, 2巻は研究室
127	Kj 30/F/5	羅馬法 / 船田享二著 ; 第5巻	1944	1		現物なし
128	Kj 30/K/5	中世私法史 / 栗生武夫著	1932	1	あり	著者献呈本, 献辞あり
129	Kj 30/K/6	リプアリア法典 / 久保正幡譯	1940	1		
130	Kj 30/N/3	西洋法制史講義 / 西本穎著	1936	1		
131	Kj 30/S/6	フランク法とローマ法 : ドイツ法史への序論 / ゾーム［著］; 久保正幡, 世良晃志郎譯	1942	1		
132	Kj 32/S/3	封建制成立史序説 / 世良晃志郎著	1948	1	あり	
133	Kj 34/H/3	楔形文字法の研究 / 原田慶吉著	1949	1		献辞あり
134	Lj 40/S/7	ナチス・ドイツの文化統制 / 齋藤秀夫著	1941	1		
135	Lj 50/M/15	経済史上のフランス革命 / 宮本又次著	1947	1		扉に宮本による鉛筆画（旧法文学部本館）あり
136	Lj 70/F/28	幕末維新史 / 藤井甚太郎著	1929	1		現物なし
137	Lj 70/F/29	藤田東湖全集 / 高須芳次郎編著 ; 第1巻	1943	1		
138	Lj 70/H/77	西南役と熊本城 / 肥後史談會編	1929	1		
139	Lj 70/H/78	維新史の方法論 / 服部之總著	1934	1		線引あり
140	Lj 70/K/102	明治十年熊本籠城顧 / 小島徳貞著	1942	1		
141	Lj 70/M/72	概觀維新史 / 維新史料編纂會［編］	1940	1		
142	Lj 70/M/73	水戸學の源流 / 松本純郎著	1945	1	あり	
143	Lj 70/M/74	藤田東湖集 / 高須芳次郎編（水戸學大系 / 高須芳次郎編 ; 第1巻）	1940	1		
144	Lj 70/M/74	會澤正志齋集 / 高須芳次郎編（水戸學大系 / 高須芳次郎編 ; 第2巻）	1941	1		

145	Lj 70/M/74	藤田幽谷集 / 高須芳次郎編（水戸學大系 / 高須芳次郎編 ; 第3巻）	1941	1		
146	Lj 70/M/74	立原翠軒・豊田天功集 / 高須芳次郎編（水戸學大系 / 高須芳次郎編 ; 第4巻）	1941	1		
147	Lj 70/M/74	水戸義公・烈公集 / 高須芳次郎編（水戸學大系 / 高須芳次郎編 ; 第5巻）	1941	1		
148	Lj 70/M/74	安積澹泊集 / 高須芳次郎編（水戸學大系 / 高須芳次郎編 ; 第6巻）	1941	1		
149	Lj 70/M/74	三宅觀瀾・栗山潛鋒集 / 高須芳次郎編（水戸學大系 / 高須芳次郎編 ; 第7巻）	1941	1		
150	Lj 70/M/74	青山拙齋・佩弦集 / 高須芳次郎編（水戸學大系 / 高須芳次郎編 ; 第8巻）	1941	1		
151	Lj 70/O/72	明治十年西南戰史 / 緒方多賀雄著 ; 小島徳貞編	1938	1		
152	Lj 70/O/73	幕末外交秘史考 / 尾佐竹猛著	1944	1	あり	栞あり
153	Lj 70/S/97	西南役側面史 / 西南戦争六十年會	1939	1		
154	Lj 80/I/22	東亞の政治的新段階 / 今中次麿著	1941	1		著者献呈本，献辞あり
155	Lj 80/K/40	満蒙行政瑣談 / 金井章次著 ; 田邊壽利編	1943	1		
156	Lj 80/M/24	蒙古文化地帯 / 宮川米次著	1943	1		
157	Lj 80/S/53	日支交渉史話 / 白柳秀湖著	1939	1	あり	
158	Mj 16/T/1	平時國際公法 : 完 / 立作太郎講述		1	あり	「平時戦時国際公法」，書込み，線引き多数
159	Nj 00/D/4	獨逸民法 : 日本民法鼇頭對比 / 荒波正隆著譯	1900	1		
160	Nj 00/H/39	法窓夜話 / 穂積陳重著 ; ［正］	1916	1		筆記体での書込あり
161	Nj 00/H/40	法窓夜話 / 穂積陳重著 ; 續	1936	1	あり	著者献呈本
162	Nj 20/S/22	物権法 / 末弘厳太郎著 ; 上巻・下巻第一分冊	1921	2	あり	上巻に蔵書印、書込あり
163	Nj 20/T/22	現代歐洲に於ける土地制度の研究 / チエルキンスキー著 ; 川上正道譯	1943	1	あり	
164	Nj 30/I/28	債權法論 / 磯谷幸次郎著 ; 総論 上・下	1918-1920	2	あり	
165	Nj 50/A/14	家族史の諸問題 / 青山道夫著	1949	1		
166	Pj 10/M/9	商法總論 / 松本烝治著	1923	1		
167	Pj 10/T/15	商法總論概要 / 田中耕太郎著	1925	1	あり	
168	Pj 20/M/19	會社法講義 / 松本烝治著	1916	1	あり	
169	Pj 30/M/12	商行爲法 / 松本烝治著 -- 増訂3版	1917	1	あり	
170	Pj 90/N/4A	解説企業整備資金措置法 / 長野潔著	1944	1		
171	Rj 00/N/27	民事訴訟法一斑 : 全 / 仁井田益太郎著	1919	1	あり	
172	Sj 00/M/62	日本刑法論 : 全 / 泉二新熊著. -- 訂正増補第16版	1913	1	あり	別人購入記録及び付箋あり
173	Sj 00/O/46	刑法講義 / 小野清一郎著 ; 各論	1928	1	あり	
174	Sj 10/I/9	帝人事件辯論 / 乾博士述 ; 金石一雄編	1937	1		
175	Sj 10/O/24	刑事訴訟法講義 / 小野清一郎著 ;全	1924	1	あり	書込あり
176	Zj 00/M/22	儒教講話 / 諸橋轍次著	1941	1		
177	Zj 00/U/3	日蓮聖人の宗教及哲學 / 馬田行啓著. -- 改訂版	1944	1	あり	
178	Zj 10/K/2	貝原益軒養生訓 / ［貝原益軒著］; 貝原守一校註	1943	1		
179	Zj 10/N/2	東洋倫理 / 西晋一郎著	1934	1		
180	Zj 10/S/3	選集倫理御進講草案 / 杉浦重剛著	1938	1		自筆署名（金田平一郎）
181	Zj 30/K/11	片山正雄遺文 / ［片山正雄著］; 九州帝國獨逸文學會編	1943	1		
182	Zj 30/M/10	海を渡りて野をわたりて / 牧野英一著	1927	1		益軒堂書店の値札あり，「高松蔵書」
183	Zj 30/M/9	西鶴織留新註 / 松浦一六著	1932	1	あり	
184	Zj 30/O/22A	丘の書 / 大澤章著	1938	1		著者献呈本，献辞あり
185	Zj 30/R/1	先立ちて來る者 / ロマン・ローラン著 ; 大澤章譯	1924	1		線引
186	Zj 30/U/2	文樂の藝術 / 内海繁太郎著	1943	1		
187	Zj 40/E/3	日本近世商業資本發達史論 / 遠藤正男著	1936	1		
188	Zj 40/E/4	九州經濟史研究 / 遠藤正男著	1942	1		
189	Zj 40/H/26	日本經濟史原論 / 本庄榮治郎著	1921	1	あり	自筆署名（金田平一郎）
190	Zj 40/M/26	近世商業經營の研究 / 宮本又次著	1948	1		「献呈」栞あり
191	Zj 40/M/27	日本國防經濟論 / 松本治彦著	1942	1		
192	Zj 40/M/28	日本商業史講話 / 宮本又次著	1948	1		
193	Zj 40/M/29	日本商業史 / 宮本又次著	1943	1		
194	Zj 40/O/16	大森研造教授遺稿 / ［大森研造著］; 故大森研造教授記念事業會編	1937	1		現物なし
195	Zj 40/O/17	統制經濟講座 / 大阪毎日・東京日日新聞社エコノミスト部編 ; 7	1939	1		
196	Zj 40/P/3	國民経済原論 / ピックハン原著 ; 前田稔靖譯	1932	1		
197	Zj 40/T/30	日本經濟學史 / 瀧本誠一著	1929	1	あり	
198	Zj 40/Y/7	現代哲學思潮 / 矢崎美盛著	1923	1		
199	Zj 70/N/12	輪中聚落地誌 / 中沢辨次郎［ほか］共著	1936	1		「若杉豊太郎・・・昭和13年5月21日・・・」
200	Zj 91/R/2	世界史の使命 / リース著 ; 坂口昂，安藤俊雄共譯	1922	1		
201	Zj 92/I/3	日本書紀通釋 / 飯田武郷著 ; 第1～第5、索引	1940	6		
202	Dj 40/T/26	帝國憲法正解 : 英佛獨米普對照 / 辰巳小二郎著	1889	1		明治文庫として貴重書室にあり
203	Kj 10/M/22	日本法制史 / 三浦菊太郎著（帝國百科全書 ; 第51編）	1900	1	あり	明治文庫として貴重書室にあり，メモあり
204	Kj 30/M/6	古代法 / メイン［著］	1885	1	あり	明治文庫として貴重書室にあり
205	Kj 30/M/7	獨逸灋 / 宮内國太郎著（帝國百科全書 ; 第173編）	1907	1		明治文庫として貴重書室にあり
206	Sj 10/M/16	英米犯姦律 : 全 / 松井順時譯述	1879	1	あり	明治文庫として貴重書室にあり
207	-	古代村落の研究 / 早川孝太郎著	1941	1	-	現物なし
208	-	享保撰要類集 / 石井良助編	1944	1	-	現物なし
209	-	近世藩法資料集成 / 京都帝国大学法学部日本法制史研究室編 ; 第1巻	1942	1	-	現物なし
210	-	近世藩法資料集成 / 京都帝国大学法学部日本法制史研究室編 ; 第3巻	1943	1	-	現物なし
211	-	徳川時代の文学に見えたる私法 / 中田薫著	1935	1	-	現物なし
		合計		366		

【別表1-2】九州大学附属図書館　金田文庫和綴本・古文書リスト（記録資料館・法制資料部門所蔵）

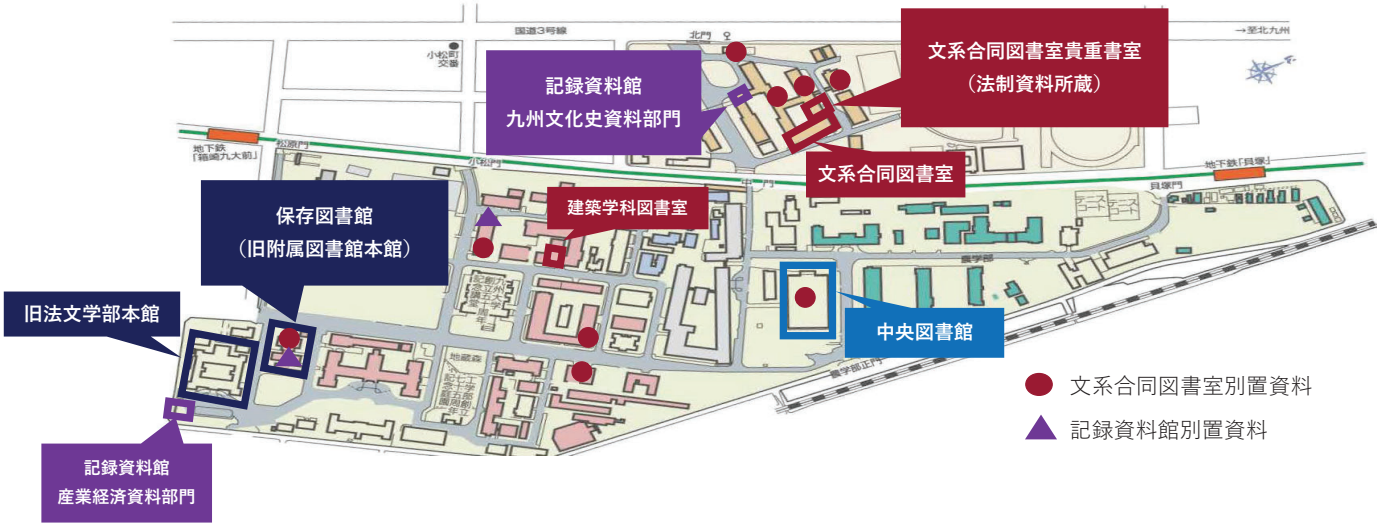
No.	請求記号	標題	作成者	出版年（書写年）	西暦	地域	内容	形態	刊写	数量
1	Dj 55-H-3	羅馬　元老議院記略	堀口昇纂訳	明治8年7月	1875			竪帳		1冊
2	Kj 12-F-23	霊山武鑑・霊山軍記（霊山武鑑）	福島県立図書館	昭和8年9月27日（発行）	1933			竪本		1冊
3	Kj 12-K-61	祭礼私攷　完	栗田寛	明治8年7月21日	1875			竪帳		1冊
4	Kj 12-N-47	守本尊	中遠有志者編	明治33年9月	1900			竪帳		1冊
5	Kj 12-R-3	年中用文章　上・下	龍章堂・玉水亨	安永5年（再版）	1776		有職故実／書札礼	竪帳		2冊
6	Kj 18-A-33	商人書状鏡	龍章堂書	弘化3年丙午	1846	京都	有職故実／書札礼、商人向書状用例集	竪帳		1冊
7	Kj 18-A-34	開化用文大成　全	朝野泰彦	明治10年3月15日	1877			竪帳		1冊
8	Kj 18-A-35	下学邇言　全	會澤安述	明治25年11月20日	1892		思想／儒学	竪帳		1冊
9	Kj 18-B-30	文化用文章		文化11年	1814	江戸	（有職故実）／書札礼	竪帳		1冊
10	Kj 18-B-36	立法論綱	ベンサム、島田三郎重訳	明治11年9月刊行	1878			竪帳		1冊
11	Kj 18-B-37	文宝節用集		江戸期			（辞書・字書）	横帳		1冊
12	Kj 18-C-31	官職通解　全	千葉玄之輯	安永4年乙未3月	1775	日本	官位／官職	竪帳		1冊
13	Kj 18-D-35	字引大日本国尽　本（大日本国尽）	江戸須原屋茂兵衛他4名	明和6年己丑5月	1769	日本	辞書・字書	竪帳		1冊
14	Kj 18-D-36	田法雑話　上	城戸新二郎	文政2巳年2月	1819	日本	農業／農書	竪帳		1冊
15	Kj 18-D-37	大ノ文字　（大全）				日本	辞書／字書	竪帳		1冊
16	Kj 18-F-34	郡役所天地人御布達		明治11年11月より	1878～	福岡県		竪帳		1冊
17	Kj 18-F-35	国民用文	福井淳	明治22年10月15日	1889			竪帳		1冊
18	Kj 18-F-36	ひたち帯（常陸帯）	（藤田彪（東湖））	江戸期			文字	竪帳		1冊
19	Kj 18-F-37	憲法発布勅語	小河敏郎編輯	明治22年2月11日	1889			竪帳		1冊
20	Kj 18-F-38	普通広益　明良用文	福岡廣業編	明治16年4月	1883			竪帳		2冊
21	Kj 18-F-39	消息文例	藤井宿弥高尚	寛政12年	1800		有職故実／書札礼	竪帳		2冊
22	Kj 18-F-40	校定常陸帯	綿引泰	慶応（2年）丙寅	1866		文学	竪帳		4冊
23	Kj 18-F-41	続後神異記	藤原長兵衛	明和9年辰年3月	1772		文学	竪帳		1冊
24	Kj 18-F-42	開化必要文章　下	藤掛貴重編輯	明治11年4月17日	1878			竪帳		1冊
25	Kj 18-F-43	〔福岡藩法令集〕		江戸期		福岡藩	法制／藩法	竪帳		1冊
26	Kj 18-G-108	源語梯	京都書肆　斎藤庄兵衛他4名	天明4年甲辰9月	1784	日本	辞書・字書	竪帳		1冊
27	Kj 18-H-66	早引用文標目	英大助・森屋治兵衛(板元)	嘉永7年	1854	江戸	有職故実／書札礼	竪帳		1冊
28	Kj 18-H-67	帝国文証大全　下	原田道義	明治13年	1880			竪帳		1冊
29	Kj 18-H-68	書翰大全　上	荻原乙彦	明治6年	1873			竪帳		1冊
30	Kj 18-H-69	開化用文証　全	原田道義	明治11年4月	1878			竪帳		1冊
31	Kj 18-H-70	秋月望春随筆		昭和17年12月25日				竪帳	謄寫版	1冊
32	Kj 18-H-71	郵便はがき用文	本田利喜	明治23年	1890			竪帳		1冊
33	Kj 18-H-72	開化小学用文	尚友堂・梅□堂・萬青堂合版	明治7年9月	1874			竪帳		1冊
34	Kj 18-I-39	公証案文　全	井上正義著	明治10年4月	1877			竪帳		1冊
35	Kj 18-I-40	香取神宮小史	伊藤泰歳編輯	明治27年2月5日発行	1894			竪帳		1冊
36	Kj 18-I-41	主従日用條目　全	池田義信述	弘化2年乙巳3月	1845		教育	竪帳		1冊
37	Kj 18-I-42	明治文証大全　完	伊藤勘兵衛著	明治21年10月	1888			竪帳		1冊
38	Kj 18-I-43	墨場必携	米?河先生輯	明治13年7月（天保7年成立）	1880			竪帳		6冊
39	Kj 18-I-44	開化普通用文章	飯沼守一	明治22年12月	1889			竪帳		1冊
40	Kj 18-I-45	真書千字文	巌谷修	明治27年4月30日	1894			竪帳		1冊
41	Kj 18-K-239	勅語述義	栗田寛述	明治以降		日本	政治／明治	竪帳	写本	1冊
42	Kj 18-K-240	公私用文章　第一集	鹿児島藩	明治4年辛未孟春	1871	日本	有職故実／書札礼	竪帳		1冊
43	Kj 18-K-241	習字公用文	黒田行元、川瀬白巌	明治7年3月	1874	日本	有職故実／書札礼	竪帳		1冊
44	Kj 18-K-242	年中重宝懐中手形証文集　全		江戸期		日本	有職故実／書札礼	竪帳断簡		1冊
45	Kj 18-K-243	翰玉古状手習鑑	市橋氏	宝暦2壬申年9月吉日	1752	日本	有職故実／書札礼	竪帳		1冊
46	Kj 18-K-244	（布達）		明治8年	1875	熊谷県	政治／明治	竪帳		1冊
47	Kj 18-K-245	（布達）		明治8年～10年	1875～1877	熊谷県	政治／明治	竪帳		1冊
48	Kj 18-K-246	子供　案文　全	山本平吉	弘化2年己巳6月	1845	日本	有職故実／書札礼	竪帳		1冊
49	Kj 18-K-247	喫茶問答		江戸期		江戸	官位／職制	竪帳		1冊
50	Kj 18-K-248	奇妙百円	河□羽積	天明丙午夏4月28日	1786	諸外国	金融／貨幣	竪帳		1冊
51	Kj 18-M-63-1	川柳法制史	三宅大一		1937			竪帳	印刷	1冊
52	Kj 18-M-95	増補改正　書用部分字引	信陽望月	明治以降				竪帳		1冊
53	Kj 18-M-96	漢和　文章大全　完	村田徴典	明治9年	1876			竪帳		1冊
54	Kj 18-M-97	飯山遺稿	松林漸伯鴻	昭和3年	1928			竪帳		1冊
55	Kj 18-M-98	明治普通文証目録	三尾重定	明治17年	1884			竪帳		1冊
56	Kj 18-M-99	新選普通　改良用文	益永晃雲	明治18年	1885			竪帳		1冊
57	Kj 18-M-100	増補　日用文章　全	□菱潭	明治8年	1875			竪帳		1冊
58	Kj 18-M-102	皇国文証大全　全	益永晃雲	明治17年	1884			竪帳		1冊
59	Kj 18-M-104	増訂再版　警官陶冶篇　完	松井茂久	明治24年	1891			竪帳		1冊
60	Kj 18-M-105	祝文記事論説　増補普通用文　全	三宅弘	明治23年	1890			竪帳		1冊
61	Kj 18-M-106	三重県　町村会規則		明治17年	1884			竪帳		1冊
62	Kj 18-N-61	開化文章自在	楢崎隆存	明治11年12月出版	1878	大坂府		竪帳		1冊
63	Kj 18-N-62	常時通用一筆啓上	中村翠雲堂	江戸期		江戸	有職故実／書札礼	竪帳		1冊
64	Kj 18-N-63	増補　文章大全	西川龍章	江戸期		京都	（文学）	竪帳		1冊
65	Kj 18-N-64	日本書紀　神代巻　上下				日本	史書、通史	竪帳		2冊
66	Kj 18-N-65	洗心舎教草		明治10年4月	1877	長野県		版本	版本	1冊
67	Kj 18-N-66	郵便はがき用文　全	西野古海	2534稔（明治7年ヵ）8月	1874ヵ					1冊
68	Kj 18-O-140	他所人来往奉公人雇入仕法	大津県	明治2巳年	1869	大津県	法制	竪帳		1冊
69	Kj 18-O-141	諸証文	小川為治	明治以降			売買・貸借／証文類	竪帳		1冊
70	Kj 18-O-142	小学作文必携　公用文	太田聿郎	明治11年2月	1878			竪帳		1冊
71	Kj 18-O-143	民家　文章早引大成　上・下	大蔵大常	嘉永5壬子年9月	1852		有職故実／書札礼	竪帳		3冊
72	Kj 18-O-144	文章かなつかひ夏・秋・冬（文章仮字用格）	大蔵永常	天保元年8月	1830		字書	竪帳		4冊
73	Kj 18-O-145	開化用文大成	小田切嘉盈	明治24年6月	1891			竪帳		1冊
74	Kj 18-O-146	開化普通用文章	岡本権丞	明治14年10月	1881			竪帳		1冊
75	Kj 18-O-147	皇朝歴代沿革図解	大槻誠之	明治庚午初冬	1870			竪帳		1冊
76	Kj 18-S-187	初学文章并万鞍方		承応2年孟春日	1653		生活／心得	竪帳		1冊
77	Kj 18-S-188	改正　諸証文類鑑	住真一郎編輯	明治7年7月	1874			竪帳		1冊
78	Kj 18-S-189	諸人日用書状要文集					有職故実／書札礼	綴		4枚

79	Kj 18-S-190	商家日用書状要文		天保14年癸卯9月	1843		有職故実／書札礼	竪帳		1冊
80	Kj 18-S-191	諸証文定則鑑　全	友鳴知足齊松旭	明治3庚午5月	1870			竪帳		1冊
81	Kj 18-S-192	聖徳太子五憲法　全		延宝3乙卯年5月吉日	1675		思想	竪帳		1冊
82	Kj 18-S-200	手紙通用書状独稽古　全	梅霞敬人	嘉永4年亥5月新刻（明治2年巳3月再刻）	1851		有職故実／書札礼	竪帳		1冊
83	Kj 18-S-201	明治実益用文	鈴木青渓編輯	明治25年11月7日	1892			竪帳		1冊
84	Kj 18-S-202	世俗通用一筆啓上　全	式亭三馬撰	文化11甲戌年2月開版（万延元庚申年4月10刻）	1814		有職故実／書札礼	竪帳		1冊
85	Kj 18-S-203	世俗通用一筆啓上　全	式亭三馬撰	文化11甲戌年2月開版（天保5年2月4刻）	1814		有職故実／書札礼	竪帳		1冊
86	Kj 18-S-204	草書淵海　上・下	齋田宗堅撰	延宝乙卯春2月	1675		辞書	竪帳		2冊
87	Kj 18-S-205	御家書札大成　全	芝泉堂先生門人昌泉堂揚山	江戸期			有職故実／書札礼	竪帳		1冊
88	Kj 18-S-206	手紙通用書状独稽古　全	梅霞敬人	嘉永4年亥5月新刻（明治2年巳3月再刻）	1851		有職故実／書札礼	竪帳		1冊
89	Kj 18-S-207	冥加訓　全	豊後国□住輔仁堂閑一楽翁	享保9年仲冬上旬	1724		思想／儒教	竪帳		1冊
90	Kj 18-S-208	必用節用大雑書　全	?高賀全	安政6己未年序	1859		生活／心得	竪帳		1冊
91	Kj 18-S-209	諸御役目録		文化10癸酉年	1813	江戸	政治／幕府	竪帳		1冊
92	Kj 18-S-212	諸証文例　全　（頭書規則全書）	巻□潭	明治8年冬12月	1875			竪帳		1冊
93	Kj 18-T-76	訴答下案大意	高田敬五郎	明治7年	1874			竪帳		1冊
94	Kj 18-T-77	初学文章并万躾方	鶴屋吉右衛門	寛文6年	1666		生活／心得	竪帳		1冊
95	Kj 18-T-78	（瞻礼記（天主降生1868年歳次戊辰））天主降生千八百六十八年歳次戊辰瞻礼記			1868		生活／暦（キリスト教）	一紙		1枚
96	Kj 18-T-79	手形証文集	東都　永栄軒蔵	江戸期			有職故実／書札礼	竪帳		1冊
97	Kj 18-T-80	諸国書状指	橘正敬	文化13年	1816		有職故実／書札礼	竪帳		1冊
98	Kj 18-T-81	当流小諷梁塵集	大野木市兵衛	明和元申歳孟冬	1764		文学	竪帳		1冊
99	Kj 18-T-82	唐土訓蒙図彙　巻之八		江戸期		中国	地理／絵図	竪帳		1冊
100	Kj 18-T-83	我津衛	松田登　幸郷	明治25年4月15日	1892			竪帳 合綴	写本	1冊
101	Kj 18-T-84	大典　学語篇　上・下		明和9年壬辰9月	1772		辞書・字書	竪帳		2冊
102	Kj 18-T-85	増補　日本汐路之記		寛政8年丙辰春	1796	東海北海西海南海	地理／地誌	竪帳		1冊
103	Kj 18-T-86	士農工商増字宝鑑	書舗大坂さつま坂東ほり留角寺田与右衛門	宝暦12年	1762		教育	竪帳		1冊
104	Kj 18-T-88	大清道光二年時憲書		道光2年	1822		漢籍（方角、暦等）	竪帳		1冊
105	Kj 18-T-89	大全手紙の文	新庄堂				有職故実／書札礼	竪帳		1冊
106	Kj 18-T-90	嘉永新版　大宝用文章大成　全	文海堂	嘉永庚戌	1850		有職故実／書札礼	竪帳		1冊
107	Kj 18-T-91	〔多賀城拓本〕		天平宝子6年12月1日	762		その他	一紙		一紙
108	Kj 18-T-92	大全早字引節用集					文字	竪帳		1冊
109	Kj 18-T-100	大全童子往来　全	山川澄成	天保丁酉夏4月	1837		文字	竪帳		1冊
110	Kj 18-T-101	貸借定則御布告写		明治以降（明治7年頃ヵ）	1874頃ヵ			竪帳		1冊
111	Kj 18-T-102	当用手習状	晴曇堂一玄	文化6己巳年5月	1809		芸術／書画	竪帳		1冊
112	Kj 18-T-103	手紙用文章　全		江戸期			有職故実／書札礼	竪帳		1冊
113	Kj 18-T-104	増補　手紙早便利大全　全		弘化4丁未年8月補刻	1847		有職故実／書札礼	竪帳		1冊
114	Kj 18-T-105	大成書状鏡		嘉永4辛亥年	1851		有職故実／書札礼	小横帳		1冊
115	Kj 18-U-15	諸書文例　増補普通案文　上・下	宇喜多小十郎	明治11年9月	1878		生活／心得	竪帳		2冊
116	Kj 18-U-16	明治勅詔	植村□通（編纂）	明治14年11月	1881		思想	竪帳		1冊
117	Kj 18-U-17	公私案文	宇喜多小十郎	明治9年10月（出版）	1876		有職故実／書札礼	竪帳		1冊
118	Kj 18-W-4	鼇頭改正　明治文証大全　下　（明治文証大全）	渡辺益	明治以降				竪帳		1冊
119	Kj 18-Y-28	習字証券状　全	山梨県	明治以降				竪帳		1冊
120	Kj 18-Y-29	諸証式摘要便覧　完	山田信次	明治10年12月	1877			竪帳		1冊
121	Kj 18-Y-30	公私書式便覧　全	山崎真三	明治7年3月19日	1874			小横帳		1冊
122	Kj 18-Z-8	大地震并山崩大火水押人死田畑水損有増記		弘化4丁未年	1847		地理／災害	竪帳		1冊
123	Kj 18-Z-9	増補　諸用文通	橘正敬	寛政6寅年5月新刻文化14丑年正月増補至4刻	1794・1817		有職故実／書札礼	竪帳		1冊
124	Kj 19-A-6	荒木家文書		天保安政				一紙		一紙3点
125	Kj 19-A-7	預申髪結床場所請状		元文元年	1736			一紙		一紙
126	Kj 19-A-8	安高文書　証文						一紙		一紙
127	Kj 19-C-15	千原家文書（田地譲渡證文）						一紙		一紙
128	Kj 19-C-16	地価地租台帳		明治7年	1874			竪帳		1冊
129	Kj 19-C-17	地券状		明治13年	1880	茨城県一				3枚
130	Kj 19-D-13	泥坊白状						竪帳		1冊
131	Kj 19-E-7	永代田地賣渡証文						和漢装	写	1冊
132	Kj 19-F-3	（鞍手郡四郎丸村）古野家文書						和漢装	写	51点
133	Kj 19-F-4	〔誤書等鞍手郡四郎丸村〕古野家文書						一紙		2点
134	Kj 19-F-5	古野文書		嘉永3年	1850			一紙		2点
135	Kj 19-F-6	古野文書						和漢装	写	2点
136	Kj 19-G-13	御用留帳		天保2年	1831			竪帳	写	1冊
137	Kj 19-G-14	後藤文書		嘉永頃				和漢装	写	15点
138	Kj 19-G-15	願書草案		明治5年	1872			一紙		一紙
139	Kj 19-G-16	月賦証文		元治元年	1864			一紙		一紙
140	Kj 19-G-17	五人組前書						竪帳		1冊
141	Kj 19-G-18	五人組帳						竪帳		1冊
142	Kj 19-G-19	五人組御仕置		文政8年	1825			竪帳		1冊
143	Kj 19-G-20	五人組帳						竪帳		1冊
144	Kj 19-G-21	郡方御法書						竪帳		1冊
145	Kj 19-G-22	五人組御仕置		文久元年	1861			竪帳		1冊
146	Kj 19-G-23	御条目		文政2年	1819			竪帳		1冊
147	Kj 19-H-13	本郷萩原笹屋文書　請取証文等						和漢装	写	22点
148	Kj 19-H-14	本多家文書　送り状等						和漢装	写	48点
149	Kj 19-H-15	長谷川貞一氏文書		弘化頃				和漢装	写	12冊
150	Kj 19-H-16	日田文書						和漢装	写	140点
151	Kj 19-H-17	博多土居町文書		天保嘉永				一紙		4点
152	Kj 19-H-18	保険契約書		明治初年	1868			和漢書	写	1冊

153	Kj 19-H-19	本畑御縄帳		宝暦4年	1754			竪帳	写	1冊
154	Kj 19-H-20	奉公人請状帳		明治22年	1889			竪帳	写	1冊
155	Kj 19-I-16	服忌辯疑図解		天保7年	1836			和漢装／折本		1冊
156	Kj 19-I-17	孝子正助之像　石松重巽　板						一紙		一紙
157	Kj 19-I-18	石抜帳		文化13年	1816			一紙		一紙
158	Kj 19-I-19	（鞍手郡所井出）稲作拾ケ年切売渡証文		文化13年	1816			一紙		一紙
159	Kj 19-I-20	飯野藩知事より願書奉願候覚						竪帳		1冊
160	Kj 19-J-2	寺院の衆議決定契約書		天明2年	1782			一紙		一紙
161	Kj 19-J-3	塾規補 六番塾						竪帳	写	1冊・写
162	Kj 19-K-14	木造戸木軍記						竪帳	写	1冊
163	Kj 19-K-30	堅志田町文書						和漢装	写	6点
164	Kj 19-K-31	金子借用証書		明治10年	1877			一紙		一紙
165	Kj 19-K-32	質物田地証文之事		寛延2年	1749			一紙		一紙
166	Kj 19-K-33	各種証文								50点
167	Kj 19-K-34	告中等社會文						竪帳	写	1冊
168	Kj 19-K-35	古今南家雑記						横帳		1冊
169	Kj 19-K-36	髪結床敷金預り証文（預り申金子之事）		万延元年	1860			一紙		一紙
170	Kj 19-K-37	各種証文						一紙		9点
171	Kj 19-K-38	漢和作文集						竪帳	写	1冊
172	Kj 19-K-39	教訓集　単						竪帳	写	1冊
173	Kj 19-K-40	久佐具狭岐幾迦記						和漢装／横本	写	3冊
174	Kj 19-K-41	海防愚存						竪帳	写	1冊
175	Kj 19-K-42	検地仕様之事						竪帳	写	1冊
176	Kj 19-K-43	聞書						竪帳	写	1冊
177	Kj 19-K-44	小作人附帳		文政3年	1820			和漢装／横本	写	1冊
178	Kj 19-M-14	（福島県伊達郡小神村）武藤家文書（送り状等）						和漢書	写	23点
179	Kj 19-M-15	（福島県伊達郡小神村）武藤家文書　田地証文等						和漢装	写	46点
180	Kj 19-M-16	申渡						竪帳		1冊
181	Kj 19-M-17	無尽講規定書						竪帳		1冊
182	Kj 19-M-19	（明治初年法令集）						竪帳	写	1冊
183	Kj 19-N-17	願下願上書案文						一紙	写	一紙
184	Kj 19-N-18	年貢割賦証文（常陸國海老ヶ嶋村一）		享保15年	1730			一紙	写	一紙
185	Kj 19-N-19	年季奉公人請状之事等						和漢装	写	4点
186	Kj 19-N-20	南関御口屋女出切手		天明4年	1784			一紙		一紙
187	Kj 19-N-21	涙金受取証						一紙		一紙
188	Kj 19-N-22	日記帳		天保11年	1840			竪帳	写	1冊
189	Kj 19-N-23	内封箱御定書（福岡藩一）						竪帳	写	1冊
190	Kj 19-O-13	御仕置五人組帳		享保18年	1733			竪帳	写	1冊
191	Kj 19-O-14	御改書上并御届帳（寺院）		天保13年	1842			和漢装	写	1点
192	Kj 19-O-15	御禮治方						和漢装／横本	写	1冊
193	Kj 19-O-16	御供起源　神馬起源						和漢装		1冊
194	Kj 19-O-17	御府江差上候屋鋪地面坪数控		明治2年	1869			和漢装	写	1冊
195	Kj 19-O-18	御觸状寫		明治2年	1869			和漢装／横本	写	1冊
196	Kj 19-R-7	略手控		元治元年	1864			和漢装／横本	写	1冊
197	Kj 19-S-64-1	相渡申一札之事	下中奥村與右衛（預主）	万延元年申12月	1860	新潟（佐渡）	売買・貸借／借用証文　米三石の預り証文	一紙		1枚
198	Kj 19-S-64-2	相渡申返り一札之事	下失地村権左衛門外2名（印）	安政6未年12月	1859	新潟（佐渡）	売買・貸借／質地　雑木林等質地面受返しの証文	一紙		1枚
199	Kj 19-S-64-3	相渡申一札之事	下失地村一札主後藤権三郎外4名	明治8年乙亥2月	1875	新潟（佐渡）	売買・貸借／証文　百姓株一面の売買証文	一紙		1枚
200	Kj 19-S-64-4	相渡申地所請証文之事	稲鯨村質地主源三郎外2名（印）	万延元申年12月	1860	新潟（佐渡）	売買・貸借／質地　上畑3畝27歩の質地証文	一紙		1枚
201	Kj 19-S-64-5	入置申一札之事	一札主下野地村権左衛門	安政3辰年3月	1856	新潟（佐渡）	宗教／神社　拙家神子職に付注連筋は頭職差回次等のこと	一紙		1枚
202	Kj 19-S-64-6	相渡申質地証文之事	雑太郎平清水村質地主九右衛門外4名	明治2巳年12月	1869	新潟（佐渡）	売買・貸借／質地　芽野三ヶ所の質地証文	一紙		1枚
203	Kj 19-S-64-7	借用申金子之事	松原村借用主惣兵衛（印）	安政6未年12月29日	1859	新潟（佐渡）	売買・貸借／借用　金子2両の借用証文	一紙		1枚
204	Kj 19-S-64-8	相渡申質地証文之事	稲鯨村質地主源三郎外4名（印）	万延元申年12月	1860	新潟（佐渡）	売買・貸借／質地　上畑3畝27歩の質地証文	一紙		1枚
205	Kj 19-S-65-1	証文	蒲池平次郎、請人光永平藏	天保7年12月	1836		売買・貸借／借用　銭2貫500目の借用証文	一紙		2枚
206	Kj 19-S-65-2-1	証文	小倉会所　光永円右衛門（印）	文久3年亥7月	1863		売買・貸借／借用　銭10貫目村々利境算用困究に付き借用のこと	一紙		1枚
207	Kj 19-S-65-2-2	差紙	御代官（印）	亥7月（文久3年ヵ）	1863		租税／年貢（物成）　米64石年貢立用のこと	一紙		1枚
208	Kj 19-S-65-3	売渡証	今村義則（阿蘇郡河陰村）（印）	明治18年5月	1885	熊本（阿蘇）	売買・貸借／譲渡　阿蘇郡河陰村地所売買の証文	一紙		一紙
209	Kj 19-S-66	諸願書控	相川法中惣代共常学院長兄外3名	嘉永3戌年2月日	1850	新潟（佐渡）	宗教／寺院　宗用に付江戸触頭へ飛脚差立の願、同様の願外2件を含む	竪帳	写本	1冊
210	Kj 19-S-67	〔佐渡奉行御触書〕（仮）	（幕府）	天明6年	1786	佐渡	法制／幕府法　御用金出金に関する幕府法、佐渡奉行所にて諸寺院への通達の旨註記あり	竪帳	写本	1冊

211	Kj 19-S-68	（博多所出）借用証文等		慶應、明治初年				和漢書	写	9点
212	Kj 19-S-69	三宮氏文書						和漢装	写	29点
213	Kj 19-S-70	詐偽一件始末						一紙	写	一紙
214	Kj 19-S-71	借金証文		明治10年	1877			一紙	写	一紙
215	Kj 19-S-72	質地證文（常陸國海老ヶ嶋村）		宝暦7年	1757			一紙		一紙
216	Kj 19-S-73	質地証文		寛延4年	1751			一紙		一紙
217	Kj 19-S-74	質地証文（常陸國海老ヶ嶋村）		元文3年	1738			一紙		一紙
218	Kj 19-S-75	質地田地証文		寛延2年	1749			一紙		3点
219	Kj 19-S-76	志ち地証文之事		元文4年	1739			一紙		一紙
220	Kj 19-S-77	相渡シ質地証文之事		宝暦4年	1754			一紙		一紙
221	Kj 19-S-78	相渡シ申一札之事(質地証文)		寛保2年	1742			一紙		一紙
222	Kj 19-S-79	借用申金子之事		文久元年	1861			一紙		一紙
223	Kj 19-S-80	相渡シ申一札之事		明和7年	1770			一紙		一紙
224	Kj 19-S-81	相渡シ申質地証文之事		寛延3年	1750			一紙		一紙
225	Kj 19-S-82	宗門人別　御改帳		天明5年	1785			竪帳		1冊
226	Kj 19-S-83	差上申一札之事						竪帳		1冊
227	Kj 19-S-84	敷金預り証文之事		文久元年	1861			一紙		一紙
228	Kj 19-S-85	借用并質券手形		文久4年	1864			竪帳		1冊
229	Kj 19-S-86	宗旨御改書物控	明石治六写書	元文6年	1741	糟屋郡筥崎浦	合綴	竪帳		1冊
230	Kj 19-S-87	三ケ年依仕組倹約定		文化15年	1818			竪帳		1冊
231	Kj 19-S-88	訴訟事件集綴						竪帳		1冊
232	Kj 19-S-89	秀函記		安政6年	1859			横帳		1冊
233	Kj 19-T-12	手紙案文						横帳		1冊
234	Kj 19-T-13	渡海往来		享保19，20年	1734-1735	筑前國加布里浦一		一紙		4点
235	Kj 19-T-14	土地賣渡状（福岡県出）		嘉永5年	1852			一紙		一紙
236	Kj 19-T-15	東京日記		明治2年				竪帳	写	1冊
237	Kj 19-T-18	宝基本記　全				造伊勢二所太神宮		竪帳	写	1冊
238	Kj 19-U-5	臼杵藩文書　　証文		嘉永頃				一紙	写	12点
239	Kj 19-U-6	氏神調		明治年間		福岡県内一		和漢装	写	21点
240	Kj 19-U-7	受取証（千原文書）		明治9年	1876			一紙		一紙
241	Kj 19-U-8	牛出入血改		天保6年	1835			一紙		一紙
242	Kj 19-U-9	改印届		安政2年	1682	佐渡		一紙		一紙
243	Kj 19-Y-15	萬屋文書　永代賣　書入等証文						一紙		171点
244	Kj 19-Y-16	（長野県諏訪郡湖東村）吉江文書		明治年間				竪帳		1冊
245	Kj 19-Y-17	屋敷永代賣渡証文		寛政6年	1794			一紙		一紙
246	Kj 19-Y-18	役金受納書						一紙		一紙
247	Kj 19-Y-19	（長野県諏訪郡湖東村）吉江文書		明治年間				和漢装	写	49点
248	Kj 19-Z-4	銭屋五兵衛　淀屋辰五郎　闕所之事	平田胤富 / 梅林新市編	昭和11年11月	1936	福岡		竪帳		1冊
249	九大法文書-6	続後神異記	藤原長兵衛	明和9年辰3月	1772			竪帳		1冊
合計										989点

別図・箱崎地区（2018年キャンパス移転まで）



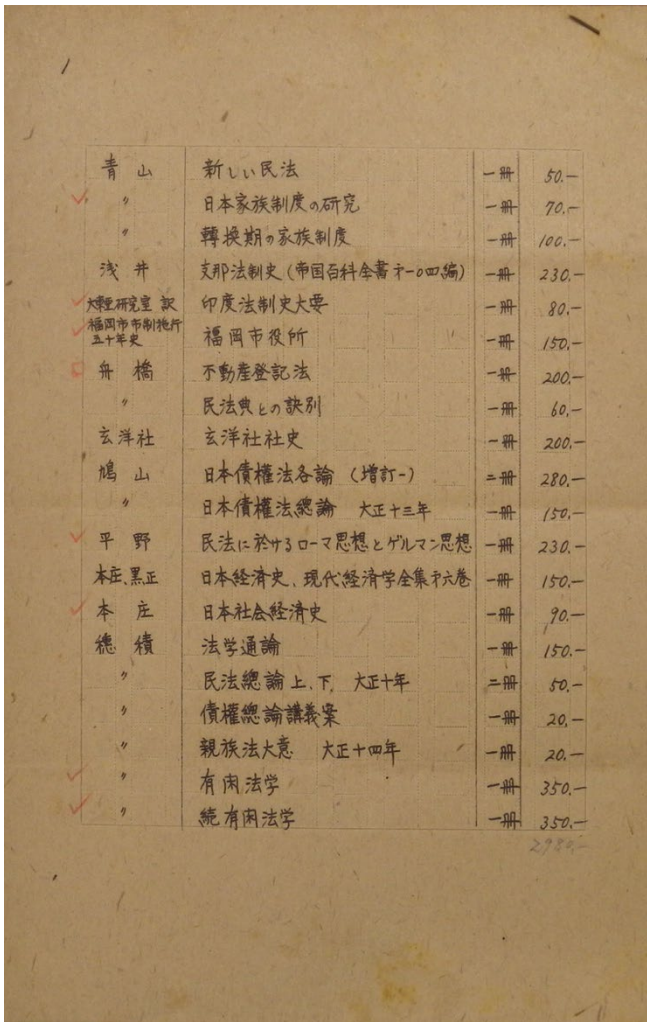
【別表2】福岡教育大学（旧・福岡学芸大学）学術情報センター図書館　金田平一郎旧蔵書リスト

No.	請求記号	標題	出版年	数量	蔵書印	備考
1	362.0321||	日本家族制度の研究 / 青山道夫著		1		現物なし
2	322.2||W72	印度法制史大要 / 大東亞研究室譯	1943	1		「昭和二十年二月二十二日　唐津にて　金田」
3	318.29||F82	福岡市市制施行五十年史	1939	1		
4	324.86||F89	不動産登記法 / 舟橋諄一著		1	あり	「謹呈金田学兄　舟橋諄一」（著者献呈本） / 朱線あり
5	324.93||H66	民法に於けるローマ思想とゲルマン思想 / 平野義太郎著	1924	1	あり	「Mr.Kaneda」 / 「大正十三年九月廿九日」
6	332.21||	日本社会経済史 / 本庄榮治郎著　；昭和9年5月第4版		1		現物なし
7	320.4||H97	有閑法學 / 穂積重遠著	1934	1		「金田学兄に呈す　穂積重遠」（著者献呈本）
8	320.4||H97	続有閑法學 / 穂積重遠著	1940	1		「金田学兄に呈す　穂積重遠」（著者献呈本）
9	311.3||I45	民族的社会主義論 / 今中次麿著	1932	1		「謹呈金田学兄　今中生」（著者献呈本）
10	311.1||	政治学 / 今中次麿著；昭和4年3月第5版		1		現物なし
11	311||I45	政治学要論 / 今中次麿著	1928	1	あり	
12	311.23||I45||1	西洋政治思想史 / 今中次麿著	1948	1		「謹呈　金田教授殿　著者」（著者献呈本） / 書き込みあり（後人か）
13	323.38||I45	ソ聯邦基本法の歴史的研究 / 今中次麿著	1946	1		「謹呈金田学兄　著者」（著者献呈本）
14	611.2||KA21	日本農地證文の研究 ： 土地價格利子小作料諸慣行の變遷 / 鎌田正忠著	1944	1	あり	挟み込みあり
15	314.9||KA95	直接民主政治 / 河村又介著	1934	1		
16	326.4||B31	犯罪と刑罰 ： 封建的刑罰制度の批判 / ベッカリーア著 ； 風早八十二訳	1929	1		
17	366.14||KI24	勞働法 / 菊池勇夫著		1	あり	「謹呈金田学兄　菊池勇夫（消線）」（著者献呈本）
18	366.14||KI24	勞働法の主要問題 / 菊池勇夫著	1943	1		「謹呈金田学兄　著者」（著者献呈本） / 書き込みあり（後人か）
19	382.1||KI63	類聚近世風俗志 ： 原名守貞漫稿 / 喜田川守貞著 ； 室松岩雄編	1927	1	あり	「昭和十八年一月三十日金沢宇都宮書店にて」
20	330.4||KY9	經濟學論文集 ： 十周年記念 / 九州帝國大學法文學部[編]；大正12年5月再版	1936	1	あり	
21	323.3||MI45	歐洲諸國戰後の新憲法 / 美濃部達吉譯	1922	1		
22	332.21||	経済史上の明治維新 / 宮本又次著		1		現物なし
23	672.1||N77	日本商人史 / 日本歴史地理學會編	1925	1	あり	
24	312.3||O36	近代歐洲政治史 / 岡義武著	1945	1	あり	書き込み多数（後人か）
25	312.6||O74	日本憲政史 / 尾佐竹猛著	1930	1	あり	
26	329.2||O74	グロティウス自由海論の研究 / 大澤章著	1944	1		「金田平一郎学兄恵存　昭和19年初夏　著者」（著者献呈本）
27	161.02||SA47	近世日本宗教思想史 / 櫻井匡著	1944	1		著者は出版当時九大司書官
28	322.14||SA85	鎌倉幕府訴訟制度の研究 / 佐藤進一著；昭和18年4刷	1943	1		
29	672.1||SU25	大日本商業史 / 菅沼貞風著	1940	1		
30	332.1||TA59||1～12	日本經濟史 / 竹越與三郎著	1934-1935	12		
31	321.1||TA84||1	法律哲學論集 / 田中耕太郎著	1942	1		
32	332.1||TS32	日本經濟史概要 / 土屋喬雄著	1934	1		
33	324||Y34	市民社會と民法 ： 總則・物權・債權 / 山中康雄著	1947	1		「昭和二十二年二月著者より恵贈　金田」（著者献呈本）
34	324.6||Y34	市民社會と親族身分法 / 山中康雄著	1949	1		「献呈金田先生　山中康雄」（著者献呈本）
35	366||Y34	勞働者權の確立 / 山中康雄著	1948	1	あり	「昭和二十三年十月廿八日著者より恵贈　金田」（著者献呈本） / 青字による訂正多数
36	321||Y34	近代法の性格 / 山中康雄著	1950	1		
37	324.01||Y34	民法と哲學 ： 民法學の基本問題 / 山中康雄著	1949	1		
38	324.52||Y34	契約總論 / 山中康雄著	1949	1		
合計				49		

【別表3】九州国際大学（旧・八幡大学）図書館　金田文庫リスト

No.	請求記号	標題	出版年	数量	蔵書印	備考
1	15||00||37	近世法制史料叢書 / 石井良助編　第一	1938	1	あり	昭和13年初夏編者より寄贈の旨書き込み，栞のようなものあり
2	15||00||38	近世法制史料叢書 / 石井良助編　第二	1939	1	あり	昭和15年1月31日編者より寄贈の旨書き込み，付箋あり
3	15||00||39	近世法制史料叢書 / 石井良助編　第三	1941	1	あり	
4	15||00||41	御触書寛保集成 / 高柳真三,石井良助編	1934	1		編者より謹呈の栞貼付，付箋
5	15||00||42	御触書宝暦集成 / 高柳真三,石井良助編	1935	1		編者より謹呈の栞貼付，付箋，九州帝大法文学部昭和3年憲法（上杉講師）受験票あり
6	15||00||40	御触書天明集成 / 高柳真三,石井良助編	1936	1		編者より謹呈の栞貼付
7	15||00||43	御觸書天保集成 / 高柳眞三，石井良助編　上	1937	1		編者より謹呈の栞貼付
8	15||00||44	御觸書天保集成 / 高柳眞三，石井良助編　下	1941	1		
9	15||00||45	法制史上より観たる日本農民の生活 ： 律令時代 / 瀧川政次郎著　上	1926	1	あり	
10	15||00||46	法制史上より観たる日本農民の生活 ： 律令時代 / 瀧川政次郎著　下	1927	1	あり	瀧川（自筆）謹呈の書き込み
11	15||00||47	徳川幕府県治要略 / 安藤博編	1915	1	あり	
12	15||00||36	憲法十七条序説 / 五十嵐祐宏著	1943	1	あり	
13	15||02||20	近代法成立史序説 / 三戸寿著	1948	1	あり	昭和23年11月17日著者より寄贈の旨書き込みあり
14	10||00||25	国際法秩序論 ： 統一的法秩序の中に於ける国際法秩序の法律的地位について / 大沢章著	1931	1	あり	大澤（自筆）謹呈（「金田平一郎助教授」）の書き込みあり
合計				14		

福岡学芸大学に提示された売却候補リスト①（本文 13 頁参照）

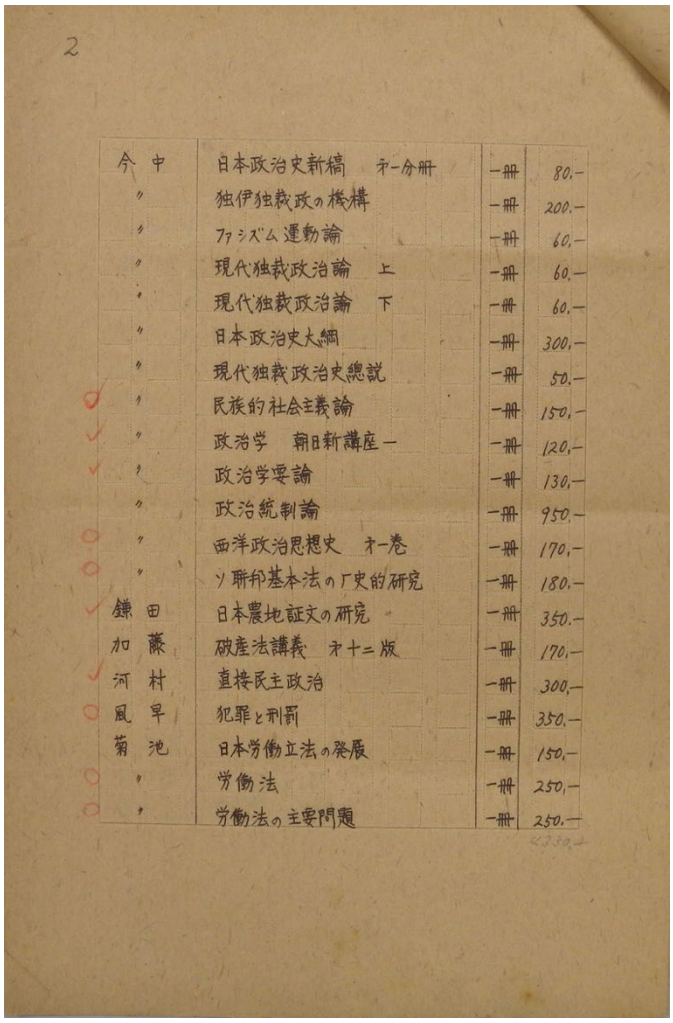


1

青山	新しい民法	一冊	50.—
〃	日本家族制度の研究	一冊	70.—
〃	轉換期の家族制度	一冊	100.—
浅井	支那法制史（帝国百科全書 第一〇四編）	一冊	230.—
大東亜研究室 訳	印度法制史大要	一冊	80.—
福岡市市制施行五十年史	福岡市役所	一冊	150.—
舟橋	不動産登記法	一冊	200.—
〃	民法典との訣別	一冊	60.—
玄洋社	玄洋社社史	一冊	200.—
鳩山	日本債權法各論（増訂一）	二冊	280.—
〃	日本債權法總論 大正十三年	一冊	150.—
平野	民法に於けるローマ思想とゲルマン思想	一冊	230.—
本庄、黒正	日本経済史、現代経済学全集 第六巻	一冊	150.—
本庄	日本社会経済史	一冊	90.—
穂積	法学通論	一冊	150.—
〃	民法總論 上、下 大正十年	二冊	50.—
〃	債權總論講義案	一冊	20.—
〃	親族法大意 大正十四年	一冊	20.—
〃	有閑法学	一冊	350.—
〃	続有閑法学	一冊	350.—

2980.—

1／6枚目



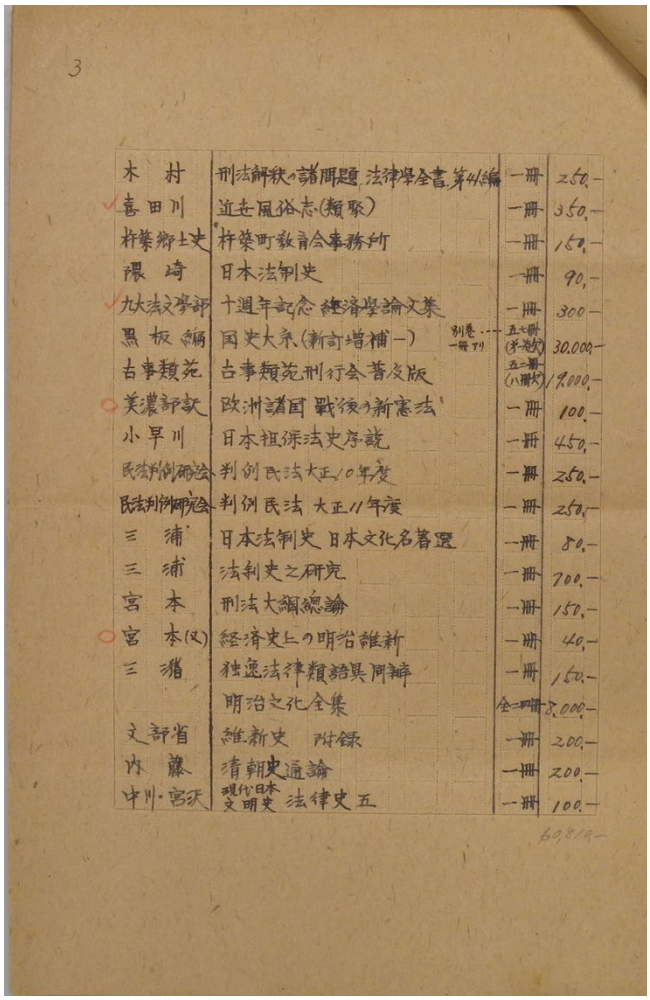
2

今中	日本政治史新稿 第一分冊	一冊	80.—
〃	独伊独裁政の機構	一冊	200.—
〃	ファシズム運動論	一冊	60.—
〃	現代独裁政治論 上	一冊	60.—
〃	現代独裁政治論 下	一冊	60.—
〃	日本政治史大綱	一冊	300.—
〃	現代独裁政治史總説	一冊	50.—
〃	民族的社会主義論	一冊	150.—
〃	政治学 朝日新講座一	一冊	120.—
〃	政治学要論	一冊	130.—
〃	政治統制論	一冊	950.—
〃	西洋政治思想史 第一巻	一冊	170.—
〃	ソ聯邦基本法の歴史的研究	一冊	180.—
鎌田	日本農地証文の研究	一冊	350.—
加藤	破産法講義 第十二版	一冊	170.—
河村	直接民主政治	一冊	300.—
風早	犯罪と刑罰	一冊	350.—
菊池	日本労働立法の発展	一冊	150.—
〃	労働法	一冊	250.—
〃	労働法の主要問題	一冊	250.—

2330.—

2／6枚目

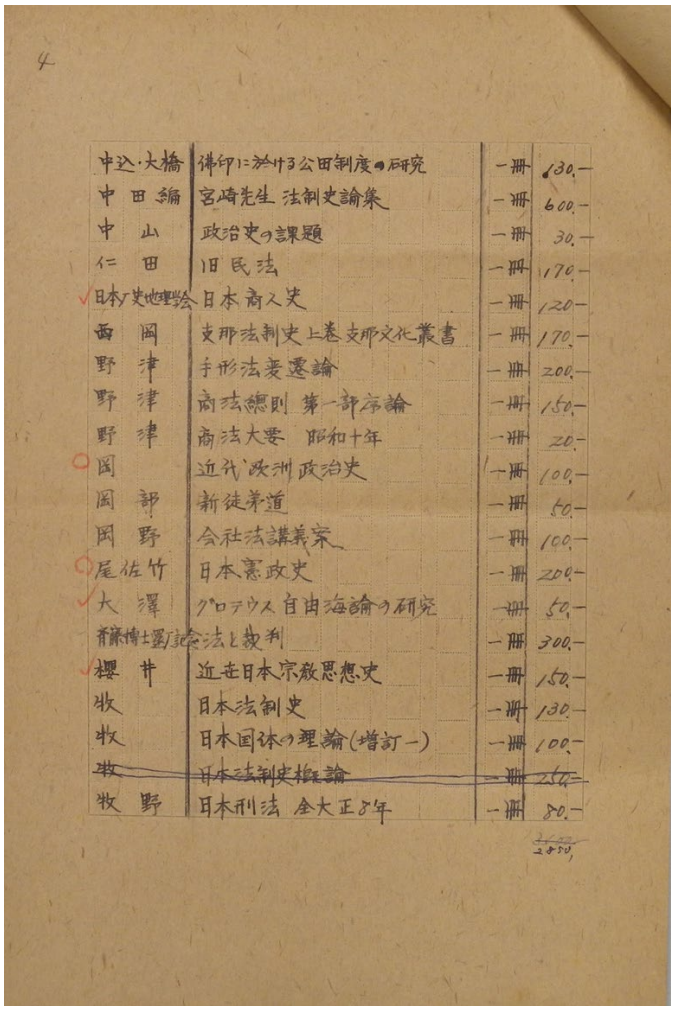
福岡学芸大学に提示された売却候補リスト②（同）



3

木村	刑法解釈の諸問題 法律學全書 第44編	一冊	250.-
✓喜田川	近世風俗志(類聚)	一冊	350.-
杵築郷土史	杵築町教育会事務所	一冊	150.-
隈崎	日本法制史	一冊	90.-
✓九大法文學部	十週年記念 經濟學論文集	一冊	300.-
黒板編	国史大系(新訂増補一) 別巻一冊アリ	五七冊(第造) 五二冊(八冊大)	30.000.-
古事類苑	古事類苑 刑行会 普及版		19.000.-
○美濃部訳	欧洲諸国 戰後の新憲法	一冊	100.-
小早川	日本祖源法史序説	一冊	450.-
民法判例研究会	判例民法 大正10年度	一冊	250.-
民法判例研究会	判例民法 大正11年度	一冊	250.-
三浦	日本法制史 日本文化名著選	一冊	80.-
三浦	法制史之研究	一冊	700.-
宮本	刑法大綱總論	一冊	150.-
○宮本(又)	経済史上の明治維新	一冊	40.-
三浦	独逸法律類語異同辞	一冊	150.-
	明治文化全集	全一冊	3.000.-
文部省	維新史 附録	一冊	200.-
内藤	清朝史通論	一冊	200.-
中川・宮沢	現代日本文明史 法律史五	一冊	100.-

69.810.-



4

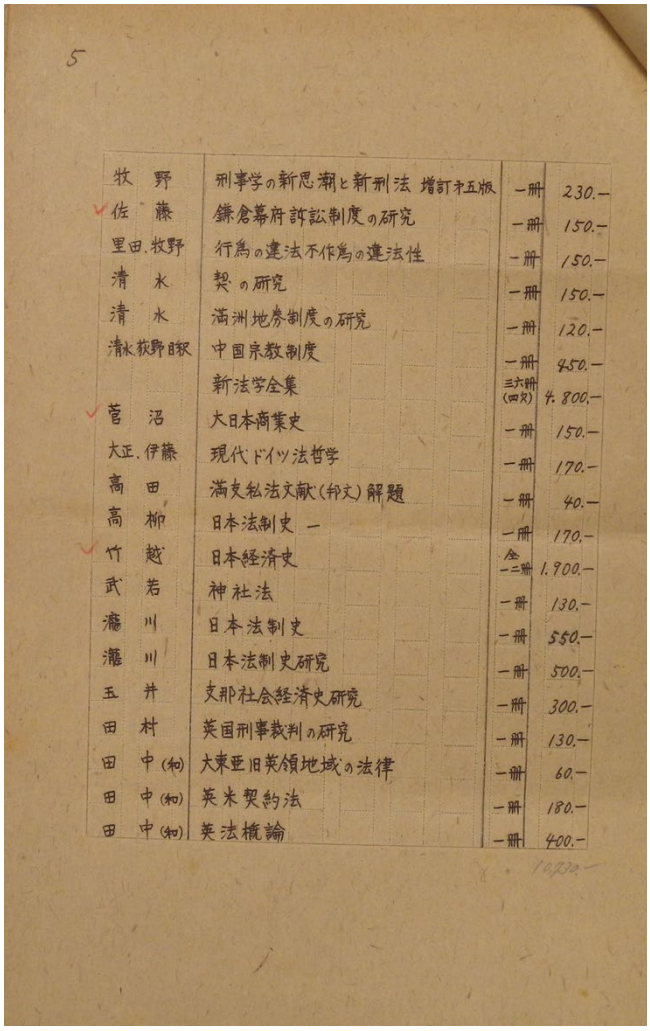
中込・大橋	佛印に於ける公田制度の研究	一冊	130.-
中田編	宮崎先生 法制史論集	一冊	600.-
中山	政治史の課題	一冊	30.-
仁田	旧民法	一冊	170.-
✓日本文化地理学会	日本商人史	一冊	120.-
西岡	支那法制史上巻 支那文化叢書	一冊	170.-
野津	手形法要説論	一冊	200.-
野津	商法總則 第一部序論	一冊	150.-
野津	商法大要 昭和十年	一冊	20.-
○岡	近代欧洲政治史	一冊	100.-
岡部	新徒弟道	一冊	50.-
岡野	会社法講義案	一冊	100.-
○尾佐竹	日本憲政史	一冊	200.-
✓大澤	グロテウス自由海論の研究	一冊	50.-
有賀博士還暦記念	法と裁判	一冊	300.-
✓櫻井	近世日本宗教思想史	一冊	150.-
牧	日本法制史	一冊	130.-
牧	日本国体の理論(増訂一)	一冊	100.-
~~牧~~	~~日本法制史概論~~	~~一冊~~	~~250.-~~
牧野	日本刑法 全大正8年	一冊	80.-

2850.

3／6枚目

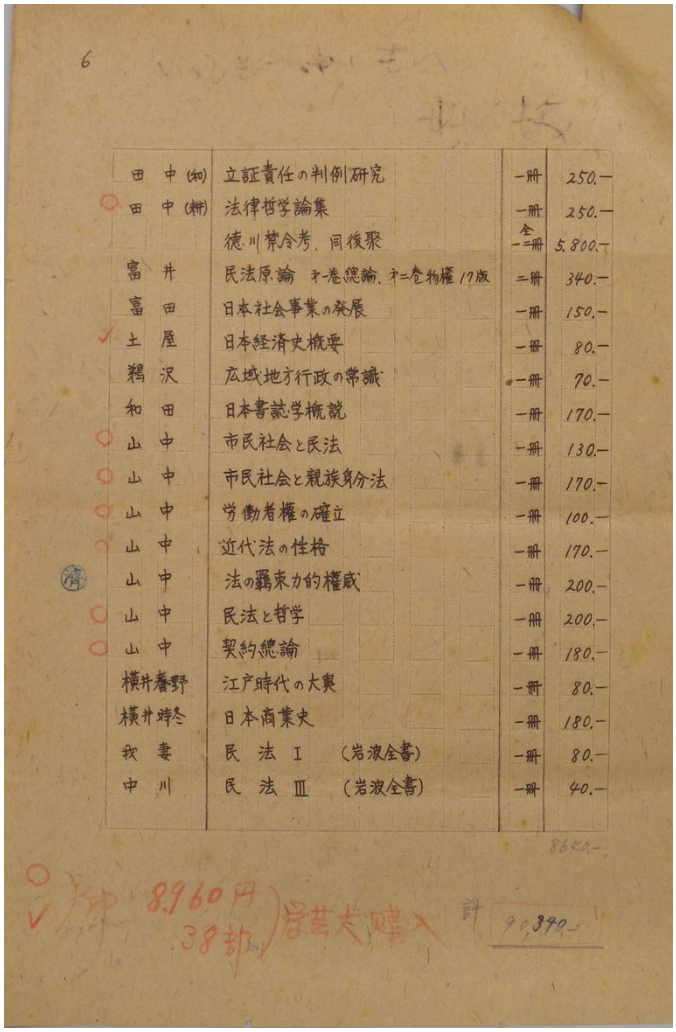
4／6枚目

福岡学芸大学に提示された売却候補リスト③（同）



牧野	刑事学の新思潮と新刑法 増訂第五版	一冊	230.—
佐藤	鎌倉幕府訴訟制度の研究	一冊	150.—
里田.牧野	行為の違法不作為の違法性	一冊	150.—
清水	契の研究	一冊	150.—
清水	満洲地券制度の研究	一冊	120.—
清水荻野日沢	中国宗教制度	一冊	450.—
	新法学全集	三六冊(四只)	4.800.—
菅沼	大日本商業史	一冊	150.—
大正.伊藤	現代ドイツ法哲学	一冊	170.—
高田	満支私法文献(邦文)解題	一冊	40.—
高柳	日本法制史 一	一冊	170.—
竹越	日本経済史	全一二冊	1.900.—
武若	神社法	一冊	130.—
瀧川	日本法制史	一冊	550.—
瀧川	日本法制史研究	一冊	500.—
玉井	支那社会経済史研究	一冊	300.—
田村	英国刑事裁判の研究	一冊	130.—
田中(和)	大東亜旧英領地域の法律	一冊	60.—
田中(和)	英米契約法	一冊	180.—
田中(和)	英法概論	一冊	400.—

5／6枚目



田中(和)	立証責任の判例研究	一冊	250.—
田中(耕)	法律哲学論集	一冊	250.—
	徳川禁令考、同後聚	全一二冊	5.800.—
富井	民法原論 第一巻総論、第二巻物権 17版	二冊	340.—
富田	日本社会事業の発展	一冊	150.—
土屋	日本経済史概要	一冊	80.—
鵜沢	広域地方行政の常識	一冊	70.—
和田	日本書誌学概説	一冊	170.—
山中	市民社会と民法	一冊	130.—
山中	市民社会と親族身分法	一冊	170.—
山中	労働者権の確立	一冊	100.—
山中	近代法の性格	一冊	170.—
山中	法の羈束力的権威	一冊	200.—
山中	民法と哲学	一冊	200.—
山中	契約総論	一冊	180.—
横井春野	江戸時代の大奥	一冊	80.—
横井時冬	日本商業史	一冊	180.—
我妻	民法 I (岩波全書)	一冊	80.—
中川	民法 III (岩波全書)	一冊	40.—

計 8960円 38部 学芸大購入 計 90,340.—

6／6枚目